

クロスロード

1

特集

活動や経験をどう生かす？

ニッポンの 伝え方





子どもたちに
伝えたいSDGs

世界の学校



モルディブの国民のほとんどがイスラム教徒。女性は髪
の毛を覆うブルガを身に着け、肌を見せない服を着ま
す。サッカーなどのスポーツは主に男の子がしていました。
男女で分かれて行う体育の授業でも、女の子はタイトの
上にスカートをはいていました。

IT教育の進んでいるモルディブの島。 朝食は学校で食べ、授業は午前中で終わります

きたわきえりこ
北脇絵里子さん(旧姓：鈴木) (モルディブ/小学校教育/2017年度4次隊・茨城県出身)

インド洋に浮かぶ約1200の島々から成るモルディブ。その首都マレからスピードボートで約2時間のヒマンドゥー島は、リゾートホテルが点在し、観光業と漁業が中心の比較的裕福な島です。島全体の人口は約800人で、そのうち4歳から15歳までの子どもたちが通う学校で体育と図工を教えました。

島の朝は早く6時半までに登校すると、パン・果物・牛乳など栄養バランスの良い朝食が出されます。朝食後から30分授業を7〜8回続けて行い、お昼の12時半頃には帰宅。昼食は家で食べます。小学生は登校も下校も親と一緒に、かばんを親に持ってもらうなど甘えん坊の子も多く見かけました。放課後が長いので勉強を教えてくれる塾に通う子もいました。

小さな島ですがIT教育は日本より進んでいて、2019年時点で生徒1人が1台のタブレット端末を持ち、英語の読み書きや計算を中心に学習していました。小学生はノートを使わず、書き込み式の教科書を使用。宿題やテストは中学生から始まり、宿題の提出はオンラインで行っていました。授業は現地の言葉ディビヒ語ではなく公用語の英語で行われ、インド人の先生が数学を教えるなど、学習のレベルは高いと感じました。

私が島に行った当初は、多くの島民がごみをポイ捨てしていて、せっかくの自然豊かな環境を守ろうとする意識が低いようでした。ごみも昔は自然に戻る素材のものが多かったでしょうが今では違います。そこで図上の授業で「水を大切に」「環境を守る」というポスターをみんなで作り、環境保護について考えるきっかけにしました。また、島民によるビーチをきれいにするイベントも盛り上がりました。行動することで意識も少しずつ変わっていくのだと実感しました。

クロスロード

2022 JAN

Contents



表紙によせて

キルギスで初めて抱き上げた元気な双子の赤ちゃん。産科病院の未熟児センターで、お母さんに抱っこの仕方を教えたり、赤ちゃんの発達を促したりする運動のサポートを行いました。キルギスでは新生児死亡率が日本よりずっと高く、小さく生まれた赤ちゃんは自宅に戻ることが難しいとされています。「元気に生まれてきてくれてありがとう!」と感激しました。中村恵理さん(キルギス/理学療法士/2016年度2次隊・北海道出身)

- 2 子どもたちに伝えたいSDGs ―世界の学校
- 3 ■Contents ■索引
- 4 JICA Volunteers' Reports
- 特集
- 6 活動や経験をどう生かす?
ニッポンの伝え方
- 14 派遣国の横顔 サモア
～知っていますか?派遣地域の歴史とこれから
- 20 専門家に聞きました!
失敗に学ぶ ～現地で役立つ人間関係のコツ
- 22 この職種の先輩隊員に注目! ～現場で見つけた仕事図鑑
- 24 あって良かったモノ
- 25 あの日、地球の、あの場所で。
- 26 先輩隊員のシューカツ記
- 28 派遣から始まる未来
進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員
- 30 待ってます、あなたを! ～各界からのエール
- 31 ウチのこだわり ―OB・OGショップ 国内編
- 32 JICA海外協力隊派遣現況
- 33 INFORMATION ～JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ～
- 34 隊員めし 現地で作った日本食、日本で作る現地めし
- 36 ウチのこだわり ―OB・OGショップ 海外編

■国別索引	掲載ページ
ウズベキスタン	12
ガーナ	36
ガボン	23
カンボジア	4
キルギス	1
グアテマラ	26
サモア	15 16 18
ザンビア	7
ジャマイカ	34
タイ	21
チュニジア	22
パラグアイ	10 24
バングラデシュ	31
東ティモール	28
ペルー	5
ミクロネシア	25
モルディブ	2

■職種別索引	掲載ページ
コミュニティ開発	31
コンピュータ技術	21
プログラムオフィサー	36
農林統計	23
マーケティング	5
青少年活動	10
バレーボール	26
サッカー	18
音楽	22
小学校教育	2 4 25
家政・生活改善	7 34
料理	28
看護師	24
保健師	12
臨床検査技師	15
理学療法士	1
公衆衛生	16

■出身都道府県別索引	掲載ページ
北海道	1 7
茨城県	2
埼玉県	18
千葉県	36
東京都	16 22 28
石川県	15
岐阜県	31
愛知県	4 23 24
大阪府	5 21 26
京都府	25
兵庫県	10
岡山県	34
広島県	12

【凡例】

JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

国際協力さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)			
氏名	派遣国	職種	隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。

編集・発行:
独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局

from Japan



「ルクマ」を通じて 日本とペルーがwin-winな関係をつくりたい

ながぐちなのみ 阪口直美さん（ペルー／マーケティング／2014年度4次隊・大阪府出身）

日本ではまだ知られていない南米のスーパーフードを届けようと、2021年3月に元同僚と共同で「A P E E 合同会社」を立ち上げ、9月からペルーの果物「ルクマ」のアイスクリームとパウダーの販売を開始しました。

ルクマは、栗のようにほくほくしていて、黒糖のような濃厚な甘さがありますが、糖質は砂糖の約3分の1と低いうえ、栄養バランスが良く食物繊維も豊富な果物です。そのまま食べるほか、アイスクリームやケーキ、プリンに加工もします。ペルーではスターバックスにルクマ味のフラペチーノがあるほどおなじみの食材です。ペルーに赴任してルクマのおいしさに感動し、「いつか日本に持っていきたい」と思うようになりました。

IT企業でマーケティングの仕事に就いた20代の初め、途上国の人々をビジネスの力で支える社会起業家の存在を知り、途上国と日本がwin-winの関係になるビジネスを行うことが私の夢になりました。協力隊への参加もそれが動機です。活動してみると、ペルーでは日本を中国の一部だと思っている人が多く、日本ではペルーを治安が悪く怖い国だというイメージで見ているなど、互いに大きなギャップがあることを実感し、それを埋めるための相互理解を進めたいと考えるようになりました。

帰国して4年、21年のお正月に友人である会社の同僚にルクマの魅力やペルーのこと、私の長年の夢を話したところ、強く共感してくれ、共同での起業に至りました。

会社のある神奈川県逗子市の商工会に入り、信用金庫から融資を得て、商品開発、国内のアイスクリーム製造契約、販路開拓まで、事業の準備を進めました。

植物検疫上、生のルクマの輸入はできないため、ペルーで飲み物やデザートに使用されるルクマ100%のパウダーを輸入し、商品化することにしました。JETROペルー事務所の協力を得て約60の工場のリストを入手し、オーガニックであることや小口の取引から始められることなどの条件で仕入れ先候補を絞り込み、現物を取り寄せ、納得できる品質のものを選びました。

販促活動や事業計画づくりはマーケティングの経験を生かしていますが、農産物の輸入は初めてだったため、検疫所や農水省に問い、貿易について一から教わりました。初めの半年は会社勤務と並行し、夜間や週末にペルーと打ち合わせをする日々でした。

ルクマで、糖質制限を求められている高血圧や不妊治療中の方など、日本人の健康課題の解決に役立ちたいですし、ルクマの販売量が増えれば、貧困層



4 ルクマの実。3大栄養素のタンパク質、脂質、糖質はもちろん、食物繊維やビタミン、鉄、リン、カルシウムなどがバランスよく含まれた栄養満点な果物 5 アイスクリームを取り扱うスズキヤ逗子駅前店



の多い生産地の若者の雇用促進にもつながります。ルクマのみならず南米の文化を伝える事業も展開し、南米をもっと身近に感じられるようにしたいと考えています。

from Cambodia



11月から授業が再開 仲間を支えられて今があります

ながぐちのこ 長屋景子さん（カンボジア／小学校教育／2019年度1次隊・2021年度7次隊・愛知県出身）

カンボジア北西部にあるバツタンバン州の小学校で、教員への理科や体育、音楽などの授業サポートを続けています。2021年6月の赴任時から約4カ月間、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）の影響で授業はすべて遠隔で行われ、私はオンラインに不慣れた教員たちのニーズを聞きながら、パソコンに映し出すスライドの作成支援や理科の実験補助、ゲームやイラストを使うアイデアの共有など、子どもたちが楽しく学べ、教員たちも楽しんで指導できるよう支援しました。11月からやっと学校が再開され、児童や教員と直接会って話ができる喜びを感じています。やる気のある教員仲間にも身が入ります。クメール語学習にも身が入ります。理科や体育、音楽などの授業が再開したら、感染対策を徹底しながら教員も児童も前向きに授業に取り組めるよう支援してまいります。

カンボジアへの派遣は今回が2回目。最初は現職教員特別参加制度を利用して、19年からバツタンバン州の別の小学校で教えていましたが、20年3月、新型コロナウイルスの感染拡大により期中途中で帰国を余儀なくされました。教員や子どもたちとの関係がうまくいき始めた頃で、気持ちの整理をつけるのが難しかったです。帰国後、元の学校に戻りましたが、12月に再派遣の

声がかかりました。新型コロナウイルスが収束せず、先が見通せないか迷いましたが、慣れ親しんだバツタンバン州でもう一度教えられるチャンスがあるならと、再赴任を決めました。

私がカンボジアに関心を持ったのは、世界を旅していたときです。協力隊に参加する前、休暇を利用して孤児院でボランティア活動中に、かつてのポル・ポト政権下で医者や教師などの知識人も殺されてしまった惨状を知りました。「何が正しくて何が誤りかわからない」というカンボジアの人々の言葉が心に残り、日本での教員経験でカンボジアの人々のために生かしたいと考えるようになりました。

1回目の派遣では自分ばかりが前に出て授業を行っていました。今回は対話を大切にして先生たちのサポート役に徹しています。カンボジアの学校教育は知識詰め込み型で、教科書は文字だらけ。子どもたちの興味・関心を引き出しながら正しい学びを深められるよう、体を使ったクイズやゲームなども取り入れています。

コロナ禍で不安がないわけではありませんが、「ここには戻ってきてくれて嬉しい」と言ってくれる仲間や知人がいます。大変な時期に粘り強く生きるカンボジアの人々とともに過ごし、これまで以上にボランティアとしてできることを考えています。



1 小学校の音楽の授業でピアノを教えているコマ（2019年）



2 語学学習や教材作りを手伝ってくれるカンボジアの友人（右）。「お坊さんである彼のおかげでカンボジアの習慣や文化をより深く知ることができている」と長屋さん



3 小学校の体育の授業でストレッチをする子どもたち（2019年）



① 隊員たちが行う手洗いダンスに、踊りの好きなザンビアの人たちもノリノリ ② バス停に掲示した『ジャパNFESTIVAL』開催を伝える広告



Case 1

隊員活動を絡めて功を奏した
ザンビア『ジャパNFESTIVAL』

水道は通っておらず、電気や通信状態も不安定、娯楽も少なく得られる情報は限られている……。そんなザンビアのノンブングウエ郡を盛り上げるために、家政・生活改善隊員として赴任していた中田かおりさんは、任地の隊員たちと共に『ジャパNFESTIVAL』を開催した。しかし当初、中田さんは、「たまたまマラウイの同期隊員が日本祭を行ったという話を一緒に聞いていた同じ任地の後輩隊員から、我々もやりたいと言われたんです。私自身はもともみんなで何かをすることが得意ではなく、日本祭という日本の文化や価値観の押しつけになってしまいう気がして、二の足を踏んでいました。でも後輩隊員と話しているうちに、自分の活動と絡めれば意義があるのでないかと思いはじめました」

当時、中田さんは郡保健局を拠点に25カ所のクリニックを回り、安価で栄養価の高い食材を使ったクッキングデ

YouTubeでもチェックできる！



中田さんたちが行った実際の『ジャパNFESTIVAL』の様子を記録したYouTubeもアップされている。

〔JICA青年海外協力隊〕アフリカでジャパNFESTIVAL in Africa!!
(制作:竹谷郷一さん/ザンビア/体育/2017年度1次隊)



隊員たちの底力を見ました！

なかた 中田かおりさん
ザンビア/家政・生活改善/
2017年度1次隊

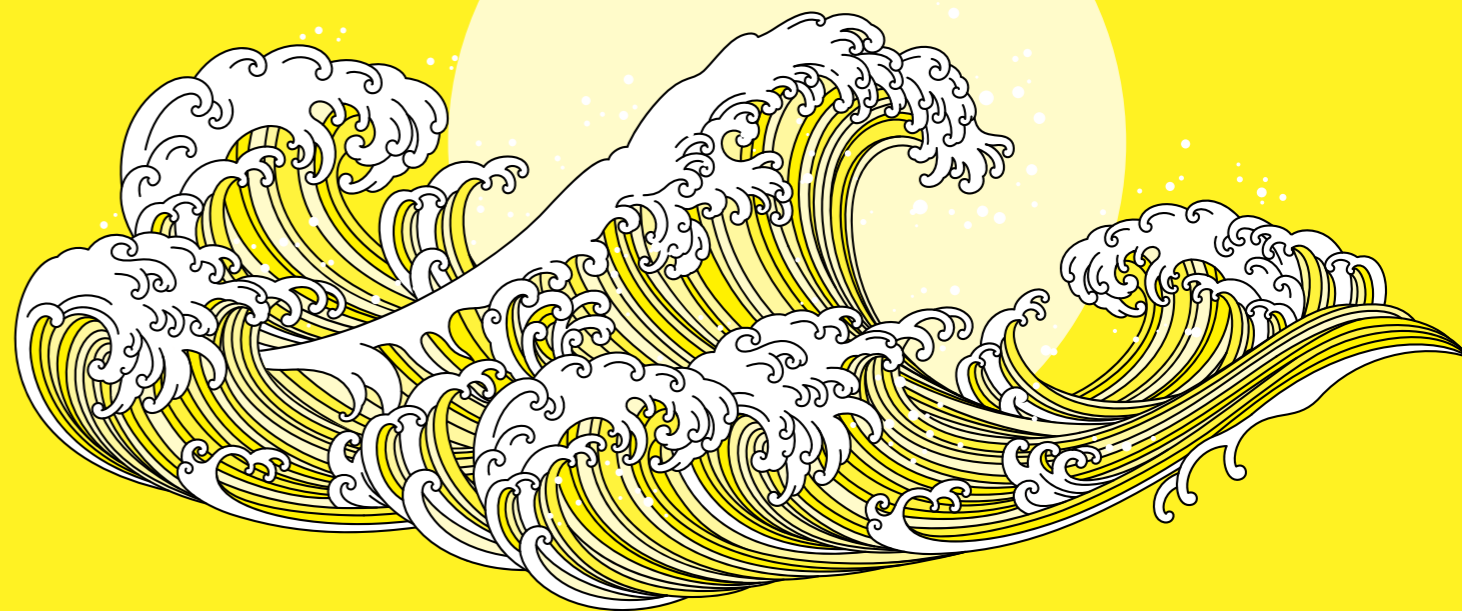
PROFILE
北海道出身。大学卒業後、保育園の栄養士、学校事務職員を経て、栄養教諭として3年間働く。2017年に協力隊に現職参加し、ザンビアへ。郡保健局を中心に25カ所のクリニックで、栄養や食事の指導、健診のサポートを行う。19年に帰国後も、北海道で栄養教諭として働いている。

モンストレイション(クッキングデモ)や5歳児以下健診のサポートなどを行っている。

「現地の人たちは、食材はあっても、その生かし方を知りません。大人も子どもも病気になるないと病院に行かないので、病気を予防する知識もない。日本だと自治体の広報誌やインターネット、学校現場などで情報を得られますが、ここではそういった情報を得る機会がありません。ならば日本祭で健康

活動や経験をどう生かす？

ニッポンの伝え方



いま、途上国の人々が日本について知りたいことは、どんなことだろうか。昔ながらのサムライやニンジャか、若い世代ならアニメやゲーム、和食や禅という人もいるかもしれない。

では、協力隊員ならではの日本の伝え方はあるだろうか。

そんな視点でOVたちの活動を調べていくと、意外にも「自分の活動を伝える延長線上で日本についても紹介することにした」といった声を耳にした。伝えたい、広めたい活動がある。どうせなら「日本祭」といったイベントにしてみたら、より多くの人に注目してもらえるのではないか、そういった発想だ。今回はザンビアとパラグアイで行われた日本祭と、広島県や長崎県出身の隊員を中心に開催されてきた「原爆展」について、OVに話を聞いた。任地で活動するなかで、日本や日本文化のことを紹介する機会が出てきたとき、先輩隊員たちの活動例を参考にしてほしい。

『ジャパンフェスティバル』 開催までの道のり

2018.10

現地隊員3人で企画立ち上げ。イベントの目的、内容、流れについて話し合う。その後、現地隊員へ協力を要請すると共に、ソーラン隊に声掛けをする。

2018.11 ~ 12

チラシを作り、各方面へ宣伝を行う。

2019.1

イベント前日に来場者用と隊員用の食事を準備。翌日にイベントを開催。



日本祭におすすめ! みたらし団子の作り方

みたらし団子は、米粉を水でこねて形を作ってゆでたら、砂糖、しょうゆ、みりんのタレをかけて、つまようじに2つずつ刺して、串団子のよ

うにする。大量に作れて、作りだめできて、食べやすく、おいしい。みたらし団子は、日本祭にぴったりのメニューだ。



イベント成功の3大ポイント

3

現地の人が好むことを
プログラムに入れる

2

天候や時期を考慮する

1

任地の隊員活動と絡める

①健康情報コーナーには、マラリアや家族計画などに関するポスターを掲示した ②中田さんが普段の活動で広めていた大豆ハンバーグを作る協力隊員たち ③ソーラン隊の迫力ある踊りに、ザンビアの人たちからも歓声が上がった ④自分の名前を漢字やカタカナで書く。書道コーナーは子どもたちに大人気 ⑤鶏の折り方を一つひとつ丁寧に教える協力隊員



啓発の情報発信をしたらどうかということになりました」

中心メンバーは中田さんと後輩隊員のほか、もう一人の現地隊員を加えた3人。3人ともたまたま保健関係の隊員だったことから、イベントの目的を健康啓発にするという意見は一致した。

また現地では、日本車というイメージが少なく、日本という国を知らない人も多かったため、日本文化も紹介することにしました。

メインは手洗いダンス 呼び水として日本食を提供

やると決めてからは、開催時期や会場、内容など着々と準備を進めていった。近隣の隊員に声をかけて協力者も募った。「開催時期は、私が3月に帰国するため1月に決めました。現地の人たちの畑仕事や子ども長期休暇にからないことはよかったです。1月は雨季の真っただ中です。雨の可能性も考えて、屋根のあるロッジを借りることにしました。マラリア、手洗い、家族計画などが郡の課題だったので、メインの内容は手洗いを啓発するための『手洗いダンス』にして、その呼び水として、みたらし団子やそうめん、私が活動で使っていた大豆ハンバーグといった日本食を用意することにしました。また任地の隊員たちで構成されている『ソーラン隊』も招集することにしました。

宣伝活動にも力を入れた。

りの水タンクで手を洗った人は、食べ物コーナーでみたらし団子を受け取ることができる。その後「健康情報コーナー」や「日本文化紹介コーナー」に移動し、そうめんや大豆ハンバーグを味わってもらおう。中田さんは大豆ハンバーグを食べてもらいながら、作り方も説明した。

健康情報コーナーでは、蚊帳を吊るし、そのなかにマラリア予防や家族計画、手洗い、妊産婦向けのポスターを掲示。テーブルには、ザンビアでよく飲まれている炭酸飲料とその炭酸飲料を1週間飲んだ場合の砂糖の量を展示した。日本文化コーナーでは、浴衣の着付けや書道、けん玉、輪投げ、流しそいうめん台と箸を使ったゲームなどを体験してもらった。

「地元のコミュニティFMで、イベントの告知をさせてもらったり、バス停に広告の横断幕を掲示したり、チラシを街で配ったりしました。また私の赴任先の郡保健局の局長の協力を得て、各施設や議会の長、チーフティネスと呼ばれる族長にも、イベントで提供するみたらし団子と大豆ハンバーグを持って、事前に挨拶に出向きました」

ソーラン隊の演舞で 幕が開けるはずだったのに

しかしながらイベント当日は、不安をすべて吹き飛ばすような快晴。開場時間前から、徒歩で来る人、バスで来る人、大勢の現地の人が会場を目指してやって来た。

ところが開始時間になっても、音響設備が届かない。ソーラン隊の演舞で幕を開ける予定だったが、音響設備が整うまで来場者を待たせることになった。「焦っていたら、すかさず隊員たちが自発的に動いて、お客様を先にブースに案内して、着付けやけん玉を体験してもらったり、手洗いダンスを自主的に始めてくれたりしました。急ぎよ、箸の使います」

特に中田さんが嬉しかったのは、大豆ハンバーグが好評だったこと。

「これまでの隊員活動のなかで、大豆ハンバーグのクッキングデモしても、手応えをあまり感じられませんでした。でも今回のイベントで提供したら『自分でも作りたい』『レシピを紙で配ってほしい』『クッキングデモをしてほしい』という声をたくさんいただきました。女性だけでなく、男性や子どもなど、幅広い層に食べてもらったことが宣伝効果につながりました」

イベント終了後は、片づけと環境教育の意味を込めて、協力隊員たちで、会場内と周辺をゴミ拾い。手伝ってくれる現地の人も現れ、住民を巻き込んだ清掃活動となった。

終わってみると、トラブルに見舞われたものの、延べ約300人の来場者を数えた。「次はいつ行われるの?」「またやってほしい」といった声が早くも聞かれるほど、好評のうちに幕を閉じた。その要因を、中田さんはこう語る。「やはり隊員活動と絡めたことで、文化の押しつけにならず、見て楽しめる、食べて楽しめる、体験して楽しめる親睦の場にできたことがよかったのかなと思います。それからザンビアの人たちは踊りが大好きなので、プログラムにソーラン節や手洗いダンスといった踊りを入れたのも正解でした」

イベント終了後、中田さんはイベント時にリクエストのあったコミュニティに足を運び、大豆ハンバーグのクッキングデモを行った。またイベントで掲示していたポスターは、巡回先のクリニックに配布した。中田さんたちが伝えたかった健康の大切さは、日本祭を通して広がりはじめた。

活用しよう 手洗い方法ポスター

ウェブサイト「JICA水・衛生啓発ツール紹介のためのプラットフォーム」では、手洗い方法を紹介したポスター(英語、フランス語、スペイン語)をはじめ、水や衛生啓発をする際に使える資料がダウンロードできる。

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/sanitation/index.html>



細切れの講座“チャルラ”をメインに

1本10分程度の“チャルラ”と呼ばれる講座を4回行う。畑中さんは一汁三菜を担当。和食とパラグアイの食事を比較して、3大栄養素の取り入れ方のコツについて話した。チャルラの合間には、日本人が踊るパラグアイダンス、箸で豆をつかむゲーム、地元のパラグアイ人のコーラスグループによるコンサート、紙飛行機飛ばしゲームなどが行われた。

Horario	Evento	Comentarios
17:00	Charla 1	La Cocina japonesa, el arroz cultural
17:15	Charla 2	Yukata
17:30	Charla 3	El Juguete de los Niños
17:45	Charla 4	Los Beneficios del Jugo de Verduras
18:00	Charla 5	El Juguete de los Niños
18:15	Charla 6	El Juguete de los Niños
18:30	Charla 7	El Juguete de los Niños
18:45	Charla 8	El Juguete de los Niños
19:00	Charla 9	El Juguete de los Niños
19:15	Charla 10	El Juguete de los Niños
19:30	Charla 11	El Juguete de los Niños
19:45	Charla 12	El Juguete de los Niños
20:00	Charla 13	El Juguete de los Niños
20:15	Charla 14	El Juguete de los Niños
20:30	Charla 15	El Juguete de los Niños
20:45	Charla 16	El Juguete de los Niños
21:00	Charla 17	El Juguete de los Niños
21:15	Charla 18	El Juguete de los Niños
21:30	Charla 19	El Juguete de los Niños
21:45	Charla 20	El Juguete de los Niños
22:00	Charla 21	El Juguete de los Niños
22:15	Charla 22	El Juguete de los Niños
22:30	Charla 23	El Juguete de los Niños
22:45	Charla 24	El Juguete de los Niños
23:00	Charla 25	El Juguete de los Niños

『健康は美しい』開催までの道のり

2019.9

現地隊員6人で発案。コンセプトを決めて近隣の協力隊員に協力を要請。役割分担して、セクターごとに準備を進める。

2019.10

チャルラの原稿を作成し、講座の練習。SNSやポスター掲示で、イベントを告知。イベント3週間前から週末ごとに大型スーパーなどでチラシを配布する。

2019.11

イベント前日から当日昼まで食事などの準備。当日は夕方からイベントを開催。

イベント成功の3大ポイント

3

雨でも対応できる場所で行う

2

地元の人との協力を得る

1

コンセプトを明確にする



②野菜ジュースコーナーでは、一日の理想の野菜摂取量がわかる野菜量り体験を実施。野菜は地元の八百屋さんが安価で提供してくれた ③箸で豆をつかむゲームは、子どもたちに大人気! ④浴衣を隊員に着付けてもらうパラグアイの女の子 ⑤オリエンタルな雰囲気たっぷりのイベント告知用のポスター



①チャルラの風景。前列で熱心にメモを取っている女性の姿が印象的だった

Case 2

健康的な食文化を広めたい
パラグアイ発『健康は美しい』

パラグアイ・グアイラ県の県庁所在地・ビジャリカで『健康は美しい』と題して、日本祭を開催したのは、青少年活動の隊員として活動していた畑中遥さん。日本で教員だったことから、普段は小学校や中学校で算数や体育の指導をし、長期休校中には英語の講座やダイエット教室を開くなど、幅広く活動していた。

日本祭のアイデアは、仲良しの女性隊員6人のおしゃべりから生まれた。「普段はみんな離れて隊員活動をしてますが、休みの日にはビジャリカのカフェに集まるのが多かったんです。あるとき、それぞれの任地で同じようなジレンマを抱えていることがわかりました。それはパラグアイの人には糖尿病や肥満が多いこと。砂糖の量が多く、野菜もあまり食べないので、健康指導やダイエット教室をしても、成果が出にくいといったことでした。しかし、みんなで話していくうちに、日本人が無意識に取り入れている健康的な食習

慣を伝えたら、パラグアイの人たちの健康をサポートできるのではないかとアイデアがまとまり、じゃあ、そういう趣旨で日本祭をやってみようかと企画が立ち上がりました」

まず決めたのはコンセプトだ。「単に日本文化を紹介するだけでなく、健康的な食生活を広めたいというコンセプトをしっかりとさせようというところから始まりました。タイトルを『健康は美しい』にしたのは、パラグアイ人は美にこだわりがあるからです。特に女性は洋服をたくさん買うし、ヘアカラーやネイルケアにも興味があつて、おしゃれ好き。ダイエット教室でも『なぜ日本人はスリムなの?』と聞かれました。だから『着飾る美しさもあるけれど、健康だから美しいこともある』、それを伝えたいと思いました」

コンセプトを明確にしたあとは、イベントや出店の内容を考えて役割分担。同時に近隣の隊員たちに協力を募った。「6人の中心メンバーをリーダーに、

本文化を伝えるだけでなく、健康的な食生活を広めるといいう、畑中さんたちの目的はしっかりと果たせたようだ。イベント成功の要因を聞くと、畑中さんは2つ挙げてくれた。

「一つは文化交流です。私たちがただ『日本っていいでしょ』と伝えるだけでなく、パラグアイのことを学んできますというスタンスを見せたことで、地元のパラグアイのコーラスグループの人たちも日本の歌を歌ってくれました。そういった文化交流ができたことがよかったです。もう一つは地元の人との協力を得られたことです。ビジャリカの隊員

コーディネーター担当、宣伝担当、食文化担当など、各セクターに分かれて協力を申し出てくれた隊員たちと準備を始めました。コンセプトを明確にしておいたおかげで、それぞれのセクターで迷ったり修正が必要になったときも、原点に戻れてよかったです」

イベントにかかる費用は、飲食の材料提供などを行うことで自分たちで賄うようにしたが、ボランティア規定に沿って赤字にならないように配慮した。イベント当日は大雨! それでも100人以上が来場

イベント当日の開始時間は17時。昼間からポツポツと雨が降り始め、夕方にはどしゃぶり。開会が危ぶまれるほどの大雨になったが、会場にはパラグアイの人たちが次々と姿を現した。メインとなるイベントは、日本食について話す「チャルラ」。「一汁三菜」朝ご飯、お弁当、旬」といったテー

た。ポスター作りや広報活動も、パラグアイの人たちが、ずいぶん協力してくれました」

イベントが思いがけず、地元の人と協働するきっかけになり、畑中さん自身、その後の隊員活動にも変化が出てきたという。「積極的に現地の人に助けを求めるようになりました。例えば、学校菜園をするときも、学校の先生だけでなく、保護者にも入ってもらいました。そうすると、どんどんプロジェクトが大きくなっていきました。イベントをきっかけに、自分一人で抱え込まず、現地の人に助けを求める大切さを学びました」

パラグアイ人はおしゃべりが大好き!



はたなか 遥さん

パラグアイ/青少年活動/2018年度1次隊

PROFILE

兵庫県出身。大学卒業後、小学校、中学校の教員を7年間務めたあと退職し、2018年に協力隊員としてパラグアイへ。現地のNGOで、算数教育や体育指導などに携わる。20年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で帰国し、国内で任期終了。21年からJICA関西で国際協力推進員として勤務。

JICA中国の派遣前平和学習とは？

広島県出身の隊員は、任地で原爆の質問を受けることが多く、それを機に原爆展を考える隊員も多いことから、新規隊員は広島県に表敬訪問後、1時間程度の派遣前平和学習を受ける。内容は、被爆体験の講話と質疑応答が中心。そのほか、JICA中国から受けられるサポートの紹介も。

『日本の今と昔～平和を祈る写真展～』
開催までの道のり

2016.1

現地隊員と発案。開催時期や会場、内容を詰めていくと同時に、他の現地隊員に協力を呼び掛ける。

2016.5

写真展に展示する写真のセレクト、折り鶴ピアスや折り鶴キーホルダーなどのプレゼントの制作、アンケート作りを行う。宣伝活動も始める。

2016.8.6-7

原爆投下の日に合わせてイベントを開催。2日間にわたって行った。

イベント成功の3大ポイント

3

国の行事を避けて開催する

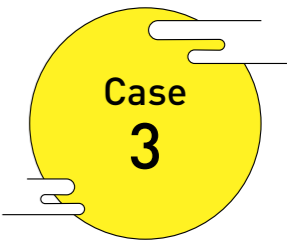
2

アンケートをとって課題を次につなげる

1

現地の協力者や理解者を見つける

- ① 宮島や折り鶴など、広島をイメージさせるイベントの告知ポスター
- ② 原爆の写真は、大人だけでなく、子どもも興味深く見てくれた
- ③ アンケートを書いたお礼の折り鶴ストラップを受けとる参加者たち
- ④ 浴衣や法被を着付けてもらってニコリ
- ⑤ 大好評の隊員たちの手作りの折り鶴ピアス。強度を高めるために、折った鶴の上にコーティング加工をしている



広島県出身の隊員が
ウズベキスタンで実現
『日本の今と昔～平和を祈る写真展～』

広島県出身だからこそ実現した日本祭もある。ウズベキスタンに保健師隊員として配属された田口実佳さんが行った、原爆展『日本の今と昔～平和を祈る写真展～』だ。

「赴任した当初から、現地の人に『広島から来ました』という、たいいてい原爆のところですよと言われました。ときどき『原爆の影響で病気や障害がある人が多いでしょう』と言われることがあり、今も広島といえば原爆が落ちた危険な場所というイメージがあるのだと、すごく衝撃を受けて、機会があれば、原爆が落ちたときの広島と今の広島、両方を伝えたいと思っていました」

赴任してから10カ月、活動が軌道に乗ってきたところに、そのチャンスは巡ってきた。

「同じ任地の隊員に原爆展のことを相談すると、現地の人に興味を持ってもらえるように日本祭と一緒にやったらどうだろうという話になり、8月6日

の原爆投下の日に合わせて実施することにしました」

田口さんの背中を押したのは、もう一つ。JICA中国が出発前の広島県出身の協力隊員を対象に実施する派遣前平和学習だ。

「『現地で原爆展を開催するときは必要な備品を送ります』と聞いたことも実施の動機になりました。ポスターやDVD、広島平和記念公園の『原爆の子の像』のモデルになっている佐々木禎子さんの資料などを送っていただきました。また研修で講話された方の『平和は努力しないと保ち続けることは難しい』といった話も私のなかに残っていて、原爆展こそが自分のできることだと思いました」

会場はウズベキスタンの首都、タシケントにある「平山郁夫国際文化センター」にある「平山郁夫出身の画家、平山郁夫氏が平和の祈りを込めて設立した建物であり、ウズベキスタン人の館長も平和への理解は深い。田口さん

終わってみれば2日間で、約1500人ものウズベキスタンの人々が来場してくれた。アンケートによると、来場者の年代は10〜20代が最も多かった。感想欄には「日本文化を体験できてよかった」という声以上に「原爆の写真を見て、原爆の熱線の痛みを想像した」「戦争を二度と繰り返してはならない」「平和が一番大切であることに気づいた」など、平和への思いをつづつたものが多かった。一方、「ロシア語だけでなくウズベク語表記もほしかった」といった要望もあり、課題を見つけていくこともできた。反省点としては、開場中にDVDやけん玉が紛失してしまつたため、「興味を持った来場者が持ち帰ってしまったら、物の管理にもっと気を配るべきだった」と言う。

停電や紛失などのアクシデントはあったものの、イベント自体はスムーズに運んだ。その理由を田口さんはこう語る。

「日本では原爆によって亡くなった人の写真も展示しますが、ここでは亡くなった人の写真はちよつと……という反応がありました。日本にとっては大事な歴史でも、外国で展示するときは、その国の人はどういった気持ちになるかを考えて選ぶことが大切だと気づきました。館長に事前に確認ができてよかったです」

ほかに着物や浴衣の着付け体験、けん玉や折り紙遊びといった日本文化が体験できるブースを設けることにした。また事前にJICAの企画調査員から「やりっぱなしはダメです」と言われていたことから、来場者にはアンケートを取ることにした。

大人だけでなく子どもも写真を見る姿が

イベントが行われたのは、8月6日、

「一つは開催場所がウズベキスタン人の協力者を見つけたことです。今回のイベントの場合は、キャラバン・サライの館長や青少年のボランティアの方々の理解があったからこそ、開催できました。もう一つは開催時期です。ウズベキスタンでは9月は国家総出で綿摘みがあるので、来場者がぐっと減ります。8月開催はタイミングもよかったです」

このイベントを開催したことで、お互いの国に興味を持って、距離が縮まったという田口さん。また中央アジア5カ国が『非核兵器地帯条約』を結んでいることも知った。

「中央アジアそれぞれの国が、地道に平和を守るための努力を続けている姿勢を見たときに、平和を守るといふのはどういふことなのかをあらためて考えるきっかけになりました」

広島に戻った今も、田口さんはその答えを探し続けている。

私にできる平和活動って？



たぐみか 田口実佳さん
ウズベキスタン/保健師/
2014年度4次隊

PROFILE
広島県出身。広島市役所で保健師として住民の健康診査や保健指導などを担当。2015年に現職参加で協力隊に参加しウズベキスタンへ。診療所に配属され、住民の肥満予防や子どもの歯磨き・手洗いを広める活動を行う。17年に帰国。21年に広島市役所を退職。

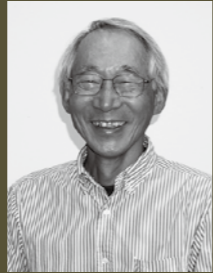
このお二人にお話を
お聞きしました！



たかはしあきこ
高橋明子さん

PROFILE

国際機関太平洋諸島センター（南太平洋経済交流支援センター）次長。航空会社、外国政府観光局で広報業務に従事したのち、外務省報道官組織、総合外交政策局を経て、現職。島しょ国の人々の生きる力や伝統文化、ゆったり流れる時間(Pacific Way)に触れるたび、その心の「豊かさ」に感心している。



さいだはるお
才田春夫さん

PROFILE

京都大学霊長類研究所在職中に動物の生態や海外の習俗に関心をもち、協力隊に参加。富山国際大学の研究員を経て、2002年より同大学で教壇に立つ。国際ボランティア養成科目を開設し、サモアで学生と共に女性自立支援プロジェクトを進めた。現在、同大学名誉教授、富山県青年海外協力隊を育てる会会長。

派遣国の 横顔

知っていますか？ 派遣地域の歴史とこれから 〈サモア〉

外交関係樹立前に協力隊の派遣が始まったサモア。
日本とは家族のような関係が続いています。

サモアの基礎知識

サモア

面積：2,830平方キロメートル（東京都の約1.3倍）
人口：約20万人（2019年、世界銀行）
首都：アピア
民族：サモア人（ポリネシア系）90%、その他（欧州系混血、メラネシア系、中国系、欧州系等）
言語：サモア語、英語（共に公用語）
宗教：キリスト教（カトリック、メソジスト、モルモン教等）

*2021年8月5日現在
出典：外務省ホームページ
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/samoa/index.html>)

派遣実績

派遣締結日：1971年9月3日
派遣締結地：東京
派遣開始：1972年12月
派遣隊員累計：686人

*2021年11月30日現在
出典：国際協力機構（JICA）

昔ながらの文化や慣習が受け継がれ 伝統を大切にしている親日国

おらかな南の島と捉えられがちだが、気候変動や国際関係をめぐり、太平洋の国々は今、世界の注目を集めている。国際機関太平洋諸島センター次長の高橋明子さんには太平洋島しょ国全般の基礎知識を、サモア協力隊OVの才田春夫さんには体験と共に、サモアを取り巻く状況や文化についてお話を聞かせていただいた。



伝統的なサモアの家「サモアンファレ」。
柱以外の壁がない=1980年

サモア独立国（以下、サモア）は日付変更線のすぐ西側にあり、世界で一番早く朝を迎える国の一つだ。初の協力隊派遣は1972年12月の土木施工の隊員で、日本とサモア（当時は西サモア）との外交関係樹立はその翌年だ。初代隊員が従事した火力発電所が完成し、配属先の公共事業省の担当相が首相となり、派遣要請は急増した。

サモア諸島は赤道の南約1200キロメートル、南太平洋の中心に位置する。サモアは、首都アピアのあるウポリ島と、その西のサバイー島などから成り、日付変更線を挟んで東側に米領サモアがある。18世紀以降、ヨーロッパ人やアメリカ人がサモア諸島に来訪し、勢力争いを展開。1899年に西部をドイツ、東部を米国が統治することにになり、1962年に西部は西サモア独立国として独立、97年に現在

の国名・サモア独立国になった。大洋州地域は、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分され、サモアはポリネシアに属するが、認知度は高くない。国際機関太平洋諸島センターの高橋明子さんは、その理由に、独立から比較的に浅いことやあまりにも小さい島国が多いことを挙げる。サモアの人口は約20万人、ニウエは約2000人だ。

最近、この地域への国際的な注目が高まっている。その理由の一つが、気候変動の影響を最も大きく受ける地域であること。各国は地域一体となって対策の必要性を訴えている。

もう一つは、中国の進出と日・米・豪などとの勢力争い。「人口が圧倒的に少なく、経済的自立が難しいなか、台湾支持だった国が、投資を期待して中国支持に態度を変えることもある」

と高橋さん。日本の海上輸送路であるうえ、親日的で日本の方針を支持する国も多く、外交的にも重要だ。一帯はマグロやカツオの漁場でもある。79年からサモアで協力隊員として活動した才田春夫さんは「漁業隊員からタキをもらって食べた」と話す。

サモア人は「南太平洋」といわれるほど、伝統を重んじる」と高橋さん。自尊心の高さは周辺の島しょ国の中でも抜きん出ているため、「対等な立場で協力を申し出るのはいいですが、助けてあげる」という意識では絶対うまかない」という。

「初めて訪問する村では、マイイ（酋長）らとカヴァ（カ）を飲み交わす儀式を行わなければ、村の正式な客人として認められません。年長者を敬うことも含めて、昔ながらの文化や慣習が受け継がれています」（才田さん）

活動の舞台裏

20年後のミニ協力隊

派遣から約20年後、才田さんは富山国際大学の教壇に立った。学長の佐々学さんはフィラリア症などの研究者で、協力隊時代にも接点があった。学長と相談し、海外ボランティアに関する授業を開講。「“ミニ協力隊”体験をさせたい」と、サモアでの2週間余りの実習を始めた。

協力隊時代、自分で課題を見つけて活動する大切さを知った才田さんは、活動のテーマを学生たち自身に考えさせた。そうして始まったのが、女性が手に職をつけ、現金収入を得ることを目指すプロジェクトだ。



富山国際大学の学生たちが実施した調理・製菓プロジェクト

初めの3年間は業務用ミシンを使った洋裁に取り組んだ。反響は大きかったが、「より学生が関われる取り組みにしたい」という思いから、その後調理や菓子作りなどに変更した。タロイモコロッケなど新たなメニューも開発した。

参加者からは、協力隊への応募者や生徒の海外派遣プログラムを企画する高校教師も出て、サモアでまかれた種が次世代にもつながっている。



帰宅すると飲まなくなったり規定量を飲まないこともあるため、感染者には治療薬を渡し、その場で飲んでもらう=1980年ごろ

フィラリアの幼虫。血液中を動き回っているところを蚊が吸血し、他の人などに感染させる

いちもりかづよ
一盛和世さん

公衆衛生 / 1976年度3次隊・東京都出身

PROFILE

協力隊参加後、ロンドン大学衛生熱帯医学校で博士号取得。その後、熱帯病対策に取り組む。WHO職員として太平洋島しょ国に14年間滞在し、太平洋リンパ系フィラリア症対策(PacELF)を立ち上げ、本部で世界リンパ系フィラリア症制圧計画責任統括官に。現在、長崎大学客員教授、ジェームズクック大学シニアフェロー、太平洋同好会代表。



フィラリア症
撲滅を目指して

サモアに協力隊派遣が始まった1970年代からフィラリア症対策に関わった2人のO.Vと、近年サッカー隊員として活躍したO.Vを紹介する。

自らの血を吸わせた隊員、顕微鏡を覗き続けた隊員

サモアが抱えていた課題の一つが、リンパ系フィラリア症(以下、フィラリア症)である。フィラリア症は、世界保健機関(WHO)が「人類のなかで制圧しなければならぬ熱帯病」と定義している20の「顧みられない熱帯病」(Neglected Tropical Diseases=NTD)の一つで、小さな寄生虫(フィラリア)が蚊を媒介として人のリンパ系に寄生することで発症する。リンパ機能が低下し、リンパ節や生殖器に浮腫(むくみ)が起きたり、進行して下肢の皮膚・皮下組織が象の皮のように厚く硬くなる象皮病になったりする。象皮病になると強い痛みや熱、悪寒も伴う。

どれくらいの数かの幼虫がいるのかを調べるために指先や肘の静脈から採血した。サモアのフィラリアは夕方から夜にかけて末梢血に現れる。そのため、チームは午後村に入った。

住民を集めるには、マタイの妻で構成される婦人会の力が大きかった。サモアでは当時から女性の地位が高く、マタイの妻ならさらに影響力があった。「あの人は今日、首都のアピアに行っているから採血できないとか、畑にいるから呼んできてなどとなる。それは絶対服従だった」と才田さんはいう。2000年、WHOは20年までに全世界でフィラリアを制圧すると宣言した。サモアでは1960年代、フィラ

サモアでは1960年代後半からフィラリア対策が進められた。77年、WHOのフィラリア症対策プロジェクトに協力するため派遣されたのが、一盛和世さんだった。フィラリア対策に関わる隊員の派遣は、協力隊として初めてだった。

「フィラリア症という不幸をなくすには、どうしたらいいか。研究だけでは足りない。政策やプログラムがなければいけない。サモアで患者と現地状況を見よう、研究を実際に使えるものにしてほしい」と一盛さんは振り返る。

サモアで活動を始めたころ、研究環境はほとんど整っていなかった。83年出版の著書『6色クレヨンの島―サモアの蚊日記』に、その様子がある。

「保健省のフィラリア・クリニックの昆虫部には何もなかった。こわれたピペットが一本に、プラスチックの小さな瓶が数個だけ」「空の倉庫同然のオフィースの中には机さえない。窓際の台に単眼の顕微鏡が一台あるきり。これでボウフラの種類を調べていた」(原文ママ)

一盛さんは保健省の大臣に直接手紙を書き、車と運転手の使用、病院の検査室の機器の使用などを認めてもらい、村々を回って、蚊の生息場所を確認した。家の庭先では、古タイヤやココナ

リア症にかかっている住民の割合は20%を超えていたが、このころには、フィラリア撲滅が射程に入っていた。WHOはさらに、「大洋州リンパ系フィラリア症制圧計画」を立ち上げ、大洋州地域では2010年までの制圧を目指した。この計画をリードしたのが、

WHOに移っていた一盛さんだった。フィラリア撲滅が間近になった現在までにサモアでフィラリア対策に従事した隊員は12人に上った。

週に1度程度、村に行く以外、顕微鏡で血液の検査をし続ける生活のなか、才田さんが楽しみにしていたことがある。夕食後、村人たちが通りに出て、おしゃべりをしたり、気の合ったグ



住民から採った血液を検査するフィラリア症対策プロジェクトのメンバー。手前から2人目が才田さん=1980年ごろ

ツの殻にたまった水のなかに、蚊の幼虫ボウフラがいた。サモア人の主食、タロイモの葉のつけ根にわずかにたまった水にも、海岸のカニが入りうる穴の水にもボウフラがいた。研究用の蚊を育てるため、飼育ケージの製作を手配し、成長させるために自分の腕をケージに入れて、血を吸わせることもあった。

一盛さんのあと、79年からフィラリア対策のために着任したのが、前出の才田春夫さんだ。チームは、一盛さんのときと同様、蚊の調査や感染防止対策を検討するチームと、採血や血液検査をするチームに分かれ、一盛さんが「蚊チーム」だったのに対し、才田さんは「採血のチーム」だった。

両チームは一緒に村々を回り、採血チームは各村で住民の80%以上、200人前後から血液を採る。血液中にフィラリアの幼虫がいるかどうかを調べるために指先や耳たぶから採血し、ループで歌ったり、踊ったりする時間。外国人も必ず、お呼びが掛かったという。

協力隊派遣から20年余りのち、大学で国際ボランティア養成科目を担当するようになった才田さんは、学生を引率してサモアを訪れた。この間、ほとんど連絡を取っていなかったにもかかわらず、かつてのホームステイ先の住民は学生とともに「家族として」受け入れてくれた。しかし、夕食後の通りの語らいは、なくなっていた。電気が普及し、テレビやゲームなど個人で楽しむものができたからだろうと才田さんは考えている。「すごく残念です」と才田さんは繰り返した。

知っていますか？
派遣地域の歴史とこれから
〈サモア〉

活動の舞台裏

カカオ・ココサモア・チョコレート

サモアの特産の一つに、カカオがある。あるとき、カカオ畑で蚊の採集をしていた一盛さんは「おながすいた」とつぶやいた。地元の少年が採ってくれたのがカカオ。熟れる前のカカオは、種が甘いゼラチン質に覆われている。

カカオの種を干して炒り、石でたたいてペースト状にし、コンロにかけたやかんに、砂糖と共にに入れて煮詰めるのが、サモア流のココア、ココサモアだ。ペーストを固化させたものも売られている。



ココサモアを飲むため、カカオを炒る

ラグビーW杯日本大会の折、サモア代表チームから「ココサモアを飲みたいからお湯を持ってきて」と依頼があったとき、ほかのスタッフは日本で一般的な粉末のココアとお湯の用意を考えた。現地で活動した土屋さんだけが、固形のココサモアを加熱しながら溶かすためのやかんとコンロが必要だとわかった。信頼が高まったのは、言うまでもない。

このカカオはチョコレートとしても輸出され、日本でも販売されている。「爽やかな酸味と程よい苦味」と高評価だという。



サモアの民族衣装、ラヴァラヴァ。男女共通で腰に巻く



学校巡回で子どもたちにサッカーの指導をする土屋さん



つちやまさと
土屋雅人さん

サッカー／2015年度4次隊・埼玉県出身

PROFILE

大学時代に協力隊に興味を持ち、会社員のかたわらサッカーのライセンスランクアップに努める。協力隊参加後はJICA埼玉デスク、2019年、日本開催のラグビーW杯でアシスタントリエゾンオフィサーを務めたのち、アフリカでサッカー教室などを展開するSOLTILOに就職、コーチとしてケニア、ウガンダ、ルワンダを巡回中。

ラグビー強国で サッカーを教える意味

2019年秋、ラグビーW杯の日本大会は、ブームを起こした。サモアも出場し、各地を転戦した。通訳や滞在中のサポートをする「リエゾンオフィサー」の一人としてチームに帯同したが、サモアでサッカー隊員として活動した土屋雅人さんだ。

サモアのスポーツ人気は、ラグビー、クリケット、バレーボール、このほか女子ならバスケットボールに似たネットボールと続き、サッカーは4〜5番手だ。サモアでのサッカーの普及・強化を目指し、国際サッカー連盟もボールや各種の用具などを支援している。日本は「スポーツ・フォー・トゥモロー」事業を推進するなか、サッカー指導者の要請が出された。

土屋さんは16年4月、2代目サッカー隊員としてサモアに着任した。協力隊の職種にサッカーがあることはその5年ほど前に知っていたが、「行くなら指導者資格を取って代表チームの指導がしたい」と思い、企業の営業職に従事しながらサッカーコーチの経験を積み、希望の活動に飛び込んだ。

最初の活動は、17歳以下のサモア男子代表チーム(U-17)のコーチ。前任の隊員と同様、サッカー協会に所属働いていても、子どもはサモアで祖父母に面倒を見てもらう人が多い。親族のつながりは続き、伝統や言葉も受け継がれています(才田さん)

さらにサモアでは親戚の子どもを見ることもごく普通で、外国人との結婚やシングルマザーも障壁にはならない。他国では奇異な目で見られがちな象皮病の患者も、地域の一人として普通に暮らす。フィラリア症の根絶を願ってサモアに来た一盛さんが、著書(『6色クレヨン』の島―サモアの蚊日記)にこう書いたほどだ。

「サモアの村を訪れ、フィラリアの検査をしていると、象のようにガサガサの皮膚をもった大きな太い足の人

し、指導にあたった。オセアニア地区予選が2週間後に迫っていて、「チームを立ち上げて、強化するぞ」という状況だった。チームは1次予選を突破し、2次予選へ。土屋さんは指導を続けたが、2次予選突破はならなかった。代表チームの指導は終了し、「グラスルーツ」から積み上げていくことが大切」と小学校を巡回してサッカーを教える活動に力を入れた。

小学校と調整し、体育の時間や昼休みにサッカーを教えた。小学校教員の隊員と協力し、希望を募った。活動を知った近隣の学校からも申し込みがあり、多い時には1日2校、週に10校を回った。代表チームに入っている選手もコーチ役として、一緒に回った。

「代表チームの選手でも、定職についている人は少ないので、コーチとして来てもらいました。コーチにも志やランチを出すのがサモアの慣習なので、協会の予算から少し出す形にしました」(土屋さん)

ラグビーの人気は絶大だが、ラグビーの苦手な子どももいる。別の競技をやることで、そうした子どもにもチャンスが生まれた。タックルがないサッカーは、男女が一緒に楽しむこともできた。

「失敗したらどうしようと考えてる日本と違って、子どもたちは失敗を恐れなやってくる。肉の厚いやつでの葉っぱのような手の人も堂々と、ごく普通にやってくる。写真を撮らせてほしい、とおずおずと申し出たのに対して、むしろ自慢するように見せてくれる」

「フィラリアは死ぬ病ではない。ケンカするより少々ゆずっても仲よくできるのなら、それにこしたことはないということなのか」(原文ママ)

サモアへの協力隊員の派遣は、健康を守る活動をはじめ、農業や漁業、教育などで続き、スポーツ分野にも広がった。プライドが高く、人口20万人の国で、派遣者数は680人を超える。

「協力隊員の多くは現地の人たちの考え方を尊重し、その生活に入っていく

い。なんでもやってみようとチャレンジしてくれました」

土屋さんにはサッカー以外にも伝えられたことがあった。それは、「ルールをちゃんと守ること、ものを大切にすること」。グループのなかで数人でも率先して片づけてくれるようになるのが、嬉しかったという。

厳しい経済状況さえ包み込む サモアの大家族主義

サモアの経済は厳しい。人口が非常に少ないため、国内で生産・消費のサイクルを構築することが難しい。土屋さんの活動もその影響を受けていた。地区予選敗退後、U-17チームの指導が継続されなかった理由の一つが、練習場が限られていることだった。大会や予選が迫っているチームが優先され、順に使うためだ。

サモア国内では仕事がなかなか見つからないため、多くのサモア人がニュージーランドやオーストラリア、アメリカで働いている。「そうした人たちからの送金がサモアの家族や経済を支えている」(高橋さん)とも言われる。それでも、厳しい現実を包み込むサモアならではの家族の形や暮らし方がある。

「親がニュージーランドやアメリカでた。だから日本人は受け入れてもいい人たちだと受け止められた」(才田さん)

活動した隊員の心にも大きなものが残った。才田さんは学生を連れて再訪を果たし、土屋さんも旅行で再訪した。土屋さんは「サモアの人々に対等に受け入れてもらった経験があるからこそ、僕は異文化や多様性を受け入れる気持ちになりました。それが現在のアフリカの子どもたちにサッカーを教える仕事にもつながっています。でもいつかはサモアに帰りたいですね」と話している。

※グラスルーツ：草の根。サッカーにおいては、性別や年齢や人種や障害の有無などにかかわらず、誰もがいつでもサッカーを楽しむようにしようとする活動

専門家に聞きました！ 失敗に学ぶ 現地で役立つ人間関係のコツ



今月の教える人 おくいとしゆき
奥井利幸さん

タイ/コンピュータ技術 / 1987年度1次隊・大阪府出身
野毛坂グローバル代表。ITエンジニアなどを経て、協力隊に参加。帰国後はJICA専門家などとしてアジア諸国で社会的弱者支援やコミュニティ開発プロジェクトに従事している。また、2016年11月に野毛坂グローバルを設立し、神奈川県横浜市をベースに、多文化共生の実践活動を行っている。

今月の
お悩み

関係者全員が出席した会議で了承されたプロジェクトが、なんの協力も得られないまま1年たちました。やる気のない同僚にがっかりしています。

(タイ/コンピュータ技術/男性)

任地に着任してすぐプロジェクトを立案して会議で提案しました。会議には関係する同僚全員が出席して異論を唱える人はいなかったのですが、全員の賛同が得られたと思い、幸先が良いとほっとしていました。

ところが、その後プロジェクトは進む気配がありません。同僚をせっせついでみても、「今は忙しいの

でしばらく待つてほしい」などという理由をつけてやるうけません。進行が遅れているというよりも、そもそも手をつけない同僚たち。自分が若いからばかにされているのか、彼らにやる気がないのか……。要請があつて派遣されてきたはずなのに、何のために日本から来たのかと、裏切られた気分になりました。

奥井先生からの
アドバイス

「約束の意味」「人と人との関係性」「納得感」に、相手と意識差があるのかもしれない。

「約束したのにやってくれない」「期日が守られない」。こうしたことが重なってやる気を失っている協力隊員は少なくないかもしれません。

しかし、私の協力隊員時代の経験や、多くの国際協力プロジェクトでの経験からすれば、「途上国の人が約束を守らない」と感じることはあまりありません。もちろん、信用のできる人、あまり信用のできない人がいるのは事実です。でも、それは日本人でも一緒ですよ。ではなぜ多くの協力隊員が「約束を守ってもらえない」と感じるのかといえれば、「約束の意味」が違うと私は考えています。

日本では自分が納得いかないことでも、会議で決まったり、上司から指示があれば、自分の気持ちにかかわらずやらねばなりません。一方で多くのアジアの国では、「自分が納得しているか」「やる、やらない」の基準になることが多い気がしま

す。会議で決定していても納得していなければ意図的にやりませんし、上司といえども本人の意思に反した無理強いはできないと考える人が多いと思います。

また、アジア圏の多くの国では、面と向かって異を唱えることはあまりしません。つまり、反対しないこと、納得していることは同じではないのです。

では、守ってもらえる約束はどうしたらできるのでしょうか。多くのアジア諸国では、「個人と個人の信頼関係」はとても重要です。また、一人ひとりに意見を聞いて納得してもらおうこともとても大切です。「こういうことを提案したいと考えている。あなたはどう思いますか?」と。

「そんな面倒」「非効率的」と思う方もいるかもしれませんが、でも実はこれ、日本でも同じです。「何を提案したか」よりも「誰が提案したか」によって判断が変わった経験はありませんか? ところで「今月のお悩み」で

すが、実は隊員時代の私からの相談です。いつまでたってもプロジェクトを始めない同僚らしげれを切らし、「やる気がないなら、私は日本に帰ります」と、活動先を飛び出しました。

荷造りをしているところに、「二人で食事に行こう」と上司が誘いに来ました。仕方なくついて行くと、「私が至らなかつた」と謝罪の言葉があり、「もう一度一緒に頑張ってみないか」と引き留めてくれました。組織の状況も理解せず、みんなの前でたなかを切った私が戻りやすいよう、上司から謝ってくれたのです。

この上司から、人と人との付き合いの重要性を学びました。その後、私がやり方を変えていくと、「私は反対だけど、協力するよ」という同僚も出てきて、活動は徐々に進み始めました。

今、私が代表を務める野毛坂グローバルでは、多くの若者がさまざまな活動をボランティアで行ってくれています。そこに

契約関係はないので、強制はできません。たとえ契約関係があつたとしても、いつでもやめる権利は誰にでもあります。だからこそ、納得感を得られているかと、人と人との関係性が一番大切だと思っています。そしてこれは前述したタイでの経験から学んだものなのです。

POINT

- 一人ひとりに意見を聞いて納得してもらう
- 「個人」と「個人」で接して信頼関係を築く



この職種先輩隊員に注目!

～現場で見つけた仕事図鑑



近くの小学校で子どもたちと一緒に野菜作り

農林統計

分類：農林水産
農林水産業について、生産高、耕地面積、農業人口、経営状況などの実態を調査
派遣中：0人(累計：17人)
類似職種：バイオテクノロジー、野菜栽培、統計

※人数は2021年11月末現在。

Q 主な活動は?
農業は気象条件により生産性が左右されるため、まずは大学内に最高最低温度計と雨量計を設置し、年間を通じて気温と降水量を計測することにしました。一時帰国の際には同僚に協力を依頼し、365日のデータを記録しました。次に、ガボンで食べられている野菜について、株と株の間の広さの違いが生産性にどれほど影響を与えるのか、生育調査と収量調査を実施しました。また、農業生産性を高めるための資材としてコンポスト(※)づ

Q 要請内容は?
配属先は、理工系の国立大学にある国立農業・バイオテクノロジー高等研究所。農業振興はガボンの重要課題の一つであり、同研究所では農業・バイオテクノロジーに特化した研究と農業分野の人材育成を行っています。研究のベースとなる統計データの蓄積ができていません。要請内容は、付属農場や近隣農家を回り、農業生産向上を目的とした統計データの作成支援を行うというものでした。しかし、現実にはデータを収集する動きは見られず、そのことを要請されることはありませんでした。そこで、職種とはやや異なりますが、自分ができる活動のなかでデータ収集を試みることにしました。

Q 現在の主な活動は?
再赴任したときにちょうど期末試験が行われていて私も試験に同席し、生徒の演奏について意見を求められました。1年前は意見を言える関係ではなかったのですが、大きな変化でした。10月の新年度からは、同僚が担当する生徒に、私が追加でもう1レッスン教えています。学院では前年度に担当した生徒に継続して教えるのが基本なので、私が指導できるようになったのも大きな変化です。指導法は教師によって異なるため、生徒にとってもさまざまな教師の指導に対する考え方を深く理解できるのではと期待しています。

Q 活動はどうでしたか?
CPや同僚の教師たちは、授業や卒論の指導などで私の活動に同行できる状態ではありませんでした。私が集めたデータはすべて同僚に提供して帰国しました。今後、そのデータを裏づけにして、野菜やコメの栽培に生かしてくれることを期待しています。

Q 配属先からのアプローチは?
ほとんどありませんでした。唯一、カウンターパート(以下、CP)である学部長から、任期途中にコメを作ってほしいと言われました。ガボンで食べられているコメのほとんどが輸入米だったため、国産のコメを作りたいという思いがあったようです。しかしながら、私もコメ栽培の経験はないので、ネットで栽培方法を調べながら、畑を開墾し陸稲を栽培しました。こちらも、種まきから収穫、脱穀までを写真に記録し、生育・収量調査を行いました。

Q 残りの任期での目標は?
本来、2021年12月までの任期でしたが、22年8月1日まで延長することができました。学校では毎年3月に大ホールのグランドピアノを使った発表会が行われます。これまで発表会に出演できるのは中級以上の生徒でしたが、今は小規模でもいいので、初心者にも発表の場をつくり、人前で演奏する楽しさを伝えたいと思っています。

単独で一から集めたデータを農業振興につなげてほしい



鈴木博俊さん
シニア海外協力隊員/ガボン/
2017年度2次隊

PROFILE
愛知県出身。JAあいち経済連に38年勤務。営農、畜産の事業部で、農家の生産活動を支援。60歳で定年退職後、再雇用されていたが、海外でボランティア活動をしたという10年来的思いを実現するため、シニア海外協力隊に応募した。

の場合



2年目の生徒に、正しい姿勢・指のフォームで弾くことを指導している

音楽

分類：人的資源
主に教育機関で生徒や教員を対象に楽器の演奏や歌の指導などを行う
派遣中：3人(累計：820人)
類似職種：青少年活動、小学校教育

※人数は2021年11月末現在。

Q 要請内容は?
チュニジアでは各町に公立の音楽・ダンス学院があります。楽器を習いたいという子どもは、放課後、そこに通うことができます。配属先のモナスティールダンス・音楽学院ではピアノ専攻科を担当しています。所属しているのは小学生から高校生まで約120人で、5人の同僚教師と共に指導(個人レッスン)にあたっています。要請内容は、生徒への演奏技術指導、指導方法のレベルアップ、発表会などの開催支援というものでした。

Q 活動で心がけたことは?
同学院への音楽隊員の派遣は約5年ぶり。年度の途中に赴任し、同僚教師が教えている生徒を譲ってもらい指導を始めたこともあり、同僚たちが「なぜこんな時期に来るのか」「なぜ譲らなければいけないのか」と不満を感じていたことが、私にも伝わってきました。まずは同僚たちとの関係を構築するところから始めようと思っていた矢先、新型コロナウイルスの感染拡大によりわずか2カ月で緊急帰国。そこで、帰国後はSNSで同僚たちと連絡を取り、授業の様子を見せてもらったり、リモート演奏をしたり、私も自分の演奏動画を投稿するなどしました。音楽を通じて交流すること、

Q 現在の主な活動は?
再赴任したときにちょうど期末試験が行われていて私も試験に同席し、生徒の演奏について意見を求められました。1年前は意見を言える関係ではなかったのですが、大きな変化でした。10月の新年度からは、同僚が担当する生徒に、私が追加でもう1レッスン教えています。学院では前年度に担当した生徒に継続して教えるのが基本なので、私が指導できるようになったのも大きな変化です。指導法は教師によって異なるため、生徒にとってもさまざまな教師の指導に対する考え方を深く理解できるのではと期待しています。

新藤真理さん
チュニジア/2019年度2次隊

PROFILE
東京都出身。2000年にアメリカ留学でピアノ教育学を専攻する傍ら、現地児童にピアノを指導。帰国後、児童英会話講師として7年間勤務。19年12月からチュニジアに赴任。新型コロナウイルス感染症拡大により20年3月から一時帰国をするも、21年6月に再赴任。

の場合



新型コロナウイルス感染症拡大で活動一時中断も音楽を通じて生まれた同僚との絆

※コンポスト…落ち葉や生ごみなどを、微生物の働きを活用して分解し、堆肥を作ること

あって良かったモノ

パラグアイ

ス〜っとするかゆみ止めも



現地の蚊対策に



どこにでも持ち歩ける安心感 ワンプッシュ蚊よけスプレー

おおはらくこ
大原育子さん パラグアイ／看護師／2014年度4次隊・愛知県出身



パラグアイで最も役立つもの、それは室内用「ワンプッシュ蚊よけスプレー」。日本メーカーの、1度押すだけで室内に薬剤が広がる商品です。体に直接かける蚊よけスプレーは持続時間が長い現地の商品を使い、両方をお守りのように持ち歩いていました。それでも刺されてしまったら、日本製のス〜っとするかゆみ止めが隊員間では人気でした。

私が蚊に敏感になったのは、赴任してすぐにデング熱の恐ろしさを目の当たりにしたからです。デング熱は蚊媒介の感染症で、私が派遣された年も感染が拡大し、地域唯一の総合病院には高熱の人が押し寄せて医療崩壊寸前でした。庭に放置したままの空き瓶やタイヤ、落ちたバナナの葉などにも雨水がたまるとボウフラが発生しやすいため、役所や警察、軍まで出動し、

一斉に町の清掃作業が行われました。

活動先の診療所でもほかの診療所の人たちと一緒に、デング熱対策を呼びかけて町を練り歩くことになりました。その打ち合わせでは医療従事者同士の白熱した議論が繰り広げられ、事の重大さを感じて緊張しました。ところが、よく聞くとイベント用に作るTシャツの色（※）でもめていて、拍子抜けしたものです。

こんなふうに、デング熱で町が大変なときでも自分たちの楽しみは忘れないのがパラグアイ流。夕暮れ時に外でマテ茶を飲みながら談笑する日課も続けられ、蚊に刺されやすい私のために、蚊取り線香をたいてくれた仲間たち。どんなときでも、ポジティブでたくましいパラグアイの人々を思い、私のパラグアイ熱はまだ冷めません。

(※) プロフィール写真で大原さんが着用しているTシャツがそれ。結局色は黄色になった。左は任地の看護師仲間。

頭上に注意！

ミクロネシアで

恐怖したあの植物

バシャバシャーン！

ココナツが豪快に川に落ちる音。

その音を聞いて、私は本当に驚いた。

ミクロネシアの宝石と呼ばれる小さな島「コスラ工島」。北太平洋と南太平洋の間、赤道近くに浮かぶ島。ミクロネシア連邦の4州の一つでサングの王国とも呼ばれる一方、ココナツの王国でもある。至る所に生え

任地の思い出を聞きました。

あの日、

地球の、

あの場所で。

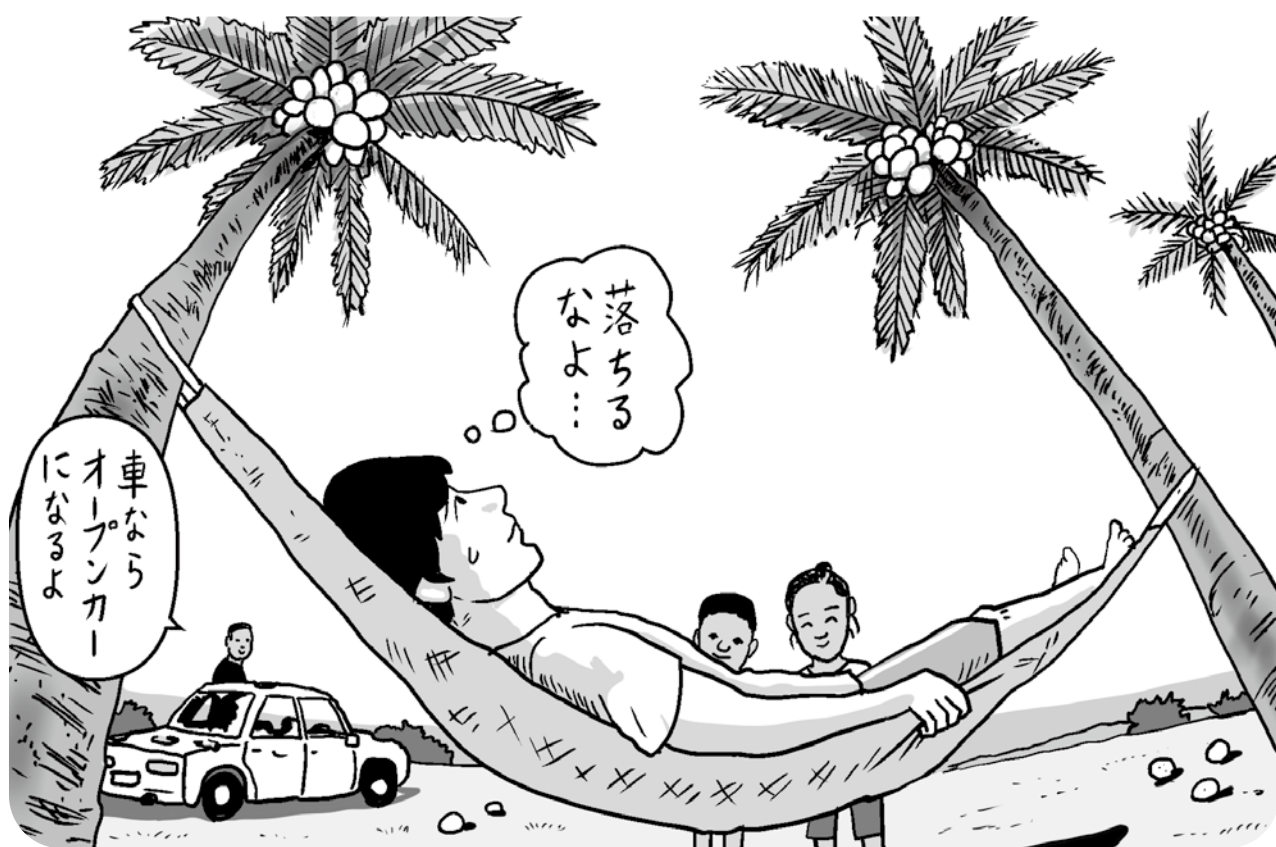


Illustration = 牧野良幸 Text = 浦澤 修

ているココナツは、島民と共に生きている。島民たちは、ココナツが車に落ちてボンネットがへこんでも、ガラス窓が割れたとしても、ただ笑うだけ。「よくあることだ、オープンカーになるから最高だよ」そう言って、割れたガラス窓にビニールを貼る。

島民は、ココナツにどんなことをされても許してしまうほどおおらかだ。それは、日頃からココナツが生活の中心にあるから。ココナツの実はミネラルが多く含まれ、栄養価が高いため、食べ物や飲み物として島民を助けている。ただ、私にとつては、まだまだココナツは怖い存在だ。

現地の友達の家遊びに行ったときに勧められた、ココナツの木に結びつけられたハンモック。真上にはずっしり実るココナツ。いつ落ちてくるのかと恐怖で眠るどころか、目がギンギンに。今後もハンモックではゆっくりと寝られそうにない。

坪井大我さん

ミクロネシア / 小学校教育 /
2019年度1次隊・京都府出身

シュエカツ記

帰国後、内定までの
就職活動の方法を聞きました。

中学から大学までバレーボールに熱中してきた情野さんは、大学を卒業してすぐに、バレーボール隊員として協力隊に参加した。赴任先のグアテマラはサッカーやバスケットボールに人気が集まり、バレーボールの普及は進んでいなかった。配属先のバレーボール協会も、選手の獲得に苦勞していた。スポーツ隊員による普及活動は、学校を巡回し子どもたちに競技を教えるというのが一般的なやり方だ。情野さんも最初のうちは学校を巡回していたが、子どもたちは集まらない。そこで行ったのが、SNSを使った広報活動。現地では珍しい日本人指導者であるこ

とを強みにバレーボール教室を宣伝し参加者を募集、そこから選手を選抜することにした。SNSで協会の公式アカウントを作り、有料の自動広告機能を設定し、参加者募集の広告を掲載。参加費を徴収することで、広告費と教室のスタッフへの給料を支払った。「協力隊では例のないやり方でしたが、選手がいなければ活動ができません。選手を増やすために、やれることをすべてやろうと思いました」その行動力は、就職活動にも生かされている。バレーボールのプロクラブチームであるヴィクトリーナ姫路の求人情報を見つけたとき、情野さんは、全日本ユースで指導をしているバレーボール隊員のOVに連絡を取った。もし会社に知り合いがいたら、紹介してほしいと頼むためだ。「任期中、ボールの調達などで相談に乗ってもらい、帰国後もお世話になっていた先輩です。バレーボールの世界では知られた方なので、ダメ元でお願いしてみました。そうしたら、球団のGM（ゼネラルマネージャー）に付き合いでくださったんです」バレーボール指導者から営業マンへ、情野さんは姫路ヴィクトリーナで新たなスタートを切った。「協力隊で培った行動力と、人を巻き込む力を武器に、突き進んでいます」

協力隊で培った フットワークと行動力を 生かせる仕事に



今月の先輩
情野弘一さん Koichi Seino
グアテマラ/バレーボール
2018年度1次隊・大阪府出身

就職先：
株式会社姫路ヴィクトリーナ



事業概要：プロバレーボールチームの運営、アスリートのマネジメント

情野弘一さんの略歴：
1995年 大阪府生まれ
2018年3月 大学卒業
2018年6月 青年海外協力隊員としてグアテマラに赴任
2020年3月 新型コロナウイルス感染症拡大のため緊急帰国
2020年6月 任期終了
2021年4月 株式会社姫路ヴィクトリーナ入社

JICA海外協力隊ウェブサイト
「帰国隊員の進路開拓についての相談受付」
https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/

※進路相談の対象は、青年海外協力隊および日系社会青年海外協力隊の経験者のみとなります。※対応可能な日は希望進路の分野によって異なりますので、あらかじめ電話またはメールでのご連絡をお願いします。



1 協力隊時代 2018年6月～



SNSでの宣伝効果が発揮されたバレーボール教室

要請内容は、配属先のバレーボール協会、小学生、中学生、高校生の選手の指導と、指導者の養成、協会運営の改善を行うこと。選手を集めるため、SNSを使いバレーボール教室への参加者を募集し、集まった子どもたちのなかから芽の出そうな生徒を選手として引き抜き、指導にあたりました。また、大会を通してバレーボール連盟の委員と知り合いました。彼はかつて海外協力隊の陸上隊員から指導を受けた経験があり、私の活動にも非常に興味を持ってくれました。連盟から要請を受け、任期後半は首都にも出張し、代表選手のサポートや首都の選抜チーム、指導者の技術指導にも取り組みました。

2 帰国～就職先探し 2020年6月

学生時代からスポーツ関連か国際協力に関わる仕事に就きたいと思っていました。JICAにも興味はありましたが、帰国と就職活動のタイミングが合わず、アルバイトをしながら希望に合いそうな企業を受けることにしました。転職サイトで気になる企業を見つけると、JICA関西の青年海外協力隊相談役の方に、その企業で自分が思っているような仕事ができるのか相談に乗っていただいたり、JICA関西が開催しているオンラインの企業交流会にも参加したりしました。

▶「PARTNER」「マイナビ」「リクナビ」
“スポーツ”“バレーボール”“国際協力”などのキーワードで検索すると、たくさんの企業がヒットしてしまうので、具体的に気になる企業名や語学（スペイン語）をキーワードに検索。

3 協力隊OVに連絡 2020年10月

姫路ヴィクトリーナの求人エントリーする前に、派遣前訓練の講演会で知り合い、今は味の素ナショナルトレーニングセンターでコーチをしている、バレーボール隊員のOVに連絡。プロスポーツのビジネスがどのようなものか知ることができ、同社に知り合いがいたら紹介してもらえないかとお願いしたところ、ゼネラルマネージャーにつなげてくださり、履歴書・職務経歴書を送ることになりました。

4 書類提出 11月

提出書類 ▶ 履歴書・職務経歴書

自己PRでは、協力隊の体験を絡ませて、会社が求める人材に当てはまることをアピールしました。例えば、募集していたのは営業職だったので、SNSを活用してゼロからお金を集めたことを、具体的な数字を挙げて書きました。大学卒業後、すぐに協力隊に参加している私には職務経歴はありませんが、協力隊で実践してきたことには自信がありました。そのため、協力隊で2年間しっかり活動したことを伝えるように心がけました。

5 面接 12月

書類を郵送してから1～2週間後、書類が届いているのか確認のための電話をしたところ、球団社長から面談しようとして声をかけていただきました。面談で印象に残っているのは、「企業や組織の中で、どうタイプか」という質問。私は、トップに立つ人間を陰で支えて、組織を回していくタイプだと思っていると答えました。社長とはその後、3回面談をし、内定となりました。

2021年1年内定、4月1日入社

現在の仕事

所属はマーケティング営業部です。ヴィクトリーナ姫路には、活動を応援してくれる協賛・後援企業があります。現在は、後援企業の担当者として、活動の報告や支援継続のお願い、企業への提案などを行っています。入社半年とはいえ、職務経験のある中途採用で入社しているので、任される企業の数も多く責任を感じています。スポーツは、日常生活に必要な不可欠なものではないので、その難しさも日々感じています。しかしながら、私の強みは前に進んでいくフットワークと行動力。それは、協力隊の経験を通じて得た力だと思っています。



2021-22シーズン初勝利のシーン（ヴィクトリーナ姫路広報写真）

後輩へメッセージ

就職活動ではテクニックも必要ですが、周りの人に頼ることも大事。協力隊には同じような経験を持つスポーツ隊員のOVがたくさんいるので、遠慮せずに相談してみるのもいいでしょう。私自身、OVに助けていただいた一人なので、後輩から相談を受ければ喜んで協力したいと思っています。やるべきことをやって、いろんな人に頼って、続けていくことで、きっと結果は出るはずですよ。

佐藤さんの歩み

2004年 神田外国語大学国際言語文化学科（旧）在学中、ルーマニアでボランティア活動。卒業後、物流企業に就職。



豪雨の被害を受けた山奥の村へ、小さなプロペラ機に乗って入りました。重機などの支援があっても使いこなせる人がいなくてパケツリレーで泥出しをしました。



2014年、調理師免許を取得。東京都内の病院に勤務。



患者の病態に合わせ、同じ料理でも8つの鍋を用意する日もありました。大量調理は段取りが大切で、物流企業での経験が生かされました。



2017年1月、協力隊として東ティモールへ



料理に関心のある人は多くなかったですが、地産地消の発想を大切に、その場にある食材で作る良い経験になりました。



2019年、東京医科大学で病院食を調理。



帰国後、日本ユニセフ協会で寄付管理などの仕事をしていましたが、コロナ禍で再び病院に戻りました。



2020年、現職。



生活支援員の仕事を始めてまだ1年。目の前の一人ひとりと向き合う日々です。



①施設利用者のバイタル測定を行う佐藤さん ②施設利用者のシーツを取り込む ③隊員時代は職業訓練校で調理実習などの授業を担当。配属先の生徒のインターン先に訪問し、授業外での生徒の様子を垣間見ることができた ④東ティモールの日本大使館で行われた天皇誕生日のレセプションに協力

派遣から 始まる 未来



進学、非営利団体入職や
起業の道を選んだ先輩隊員

▶非営利団体ふるさとの会入職

佐藤信希さん Nobuki Sato

東ティモール/料理 / 2016年度3次隊・東京都出身



海外での経験を糧に日本の「困窮」と向き合う

「行き場を失った人たちの最後のとりで」、そう呼ばれる福祉施設がある。都内で700人以上の高齢者らを受け入れる、NPO法人自立支援センターふるさとの会。佐藤さんは、2021年から生活支援員として働いている。大学を卒業後、物流企業に就職したが、東日本大震災をきっかけに災害などの危機的状況下でも役立つ技術を身につけようと、「食」の道を志した。専門学校に入り直し、調理師免許を取得。同級生の多くはホテルやレストランなどに就職したが、佐藤さんは都内の病院に勤務し、朝昼2回、各200食、重症患者や産後の女性、胃潰瘍の患者などの病態や体調に合わせて食事をこしらえた。

2年後、積み重ねた調理の腕を試そうと協力隊に応募。「学生時代、ルーマニアの被災地でボランティア活動をした経験から、いつか身一つで世界へ行って働きたいと思っていました。」

16年1月、東ティモールに派遣され、国立の職業訓練校で調理実習などの授業を担当。生徒に料理の楽しさを伝えることから始め、食堂のメニューの改善や献立計画の導入なども行った。また、隊員活動の合間を縫って、国際自転車レース「ツール・ド・ティモール」の料理班として参加。中継地点に設置されたキャンプの厨房で、選手やボランティアの食事を作りながら、周囲のメンバーにさまざまな調理

が入居する日常生活支援住居施設に配属され、入居者の病院の付き添いや健康管理、生活のサポートなどを行っている。一人で外出してしまい交番で保護された利用者を「おかえり」と迎える日もある。宿直時は寝泊まりしながら利用者の心を感じ取る。「病院調理の仕事では患者さんと直接向き合う機会が少なかったのですが、今は違います。一人ひとりの話を聞く時間がたくさんあります」。生活困窮者とひとくくりにはされがちな人にも、異なる物語がある。統合失調症や認知症、お金とうまくつき合えないまま生きてきた人もいる。ふるさとの会は、さまざまな問題を抱える人々と向き合い、解決法を見つけて路上から引き上げ、暮らしと笑顔を取り戻してきた。

「新卒で今の仕事をしていたら長くは続けられなかったかもしれません。でも協力隊など世界で多様な境遇の人に会ってきたせいか、今はどんな困難にいても人とも向き合える気がします」

法を教えた。佐藤さんは「赴任当初は生徒や職員の『食』に対する意識の低さに落胆しましたが、配属先以外の人との交流を通じて、東ティモール国民の多様性を実感し、結果的に充実した隊員活動となりました」と振り返る。

帰国後は大学病院に就職し、調理の仕事に戻ったが、20年、新型コロナウイルス感染症が流行。病院内の状況は急変し、病床や人手不足を理由とする一時退院や転院、手術の延期など命の選択を迫られる「危機」を垣間見た。「特に病院の外に出された命の行方が気になりました」。そうしたなか、帰国隊員向けのメルマガジンのなかにあつた「生活困窮者」という言葉が目が留まった。自立支援生活センターふるさとの会の求人情報だった。帰国後ずっと気になっていた国内の「貧困」を知るきっかけになると、佐藤さんは吸い寄せられるように応募した。

「誰もが地域で孤立せず最期まで暮らせるように」をスローガンに掲げるふるさとの会は、1990年に東京・山谷地域でホームレスを支援するボランティア団体として始まり、99年にNPO法人格を取得。共同住宅の空き家などを改装して3食付きの個室を用意し、地域の医療機関やヘルパーと連携して24時間体制で暮らしを支えてきた。台東区や墨田区など5つの区に展開する29施設のうち、佐藤さんは、一人暮らしが困難な高齢者など70人以上

「日本では、生活保護や制度に守られた環境下で、満たされることのない欲求に多くの人が苦しんでいます。精神的な貧しさを少しでも減らし、生きづらさを抱える人たちを社会全体で支える『共同性の回復支援』につなげていきたいと思っています」



防災訓練では施設利用者と避難することを想定して屋外実践を行った



2020年11月6日に開催された第11回アジア・ビジネス・サミットには、アジアの12の国と地域を代表する14の経済団体が参加した

待ってます、あなたを！
各界からのエール

From 一般社団法人
日本経済団体連合会



「人財」ここにあり。 総合力で世界の課題解決を

日本経済団体連合会（以下、経団連）は、1650の日本の代表的な企業と業種別・地方別団体で構成され、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上への寄与を使命としています。2020年11月、これまでの行き過ぎた成長戦略に終止符をうち、サステイナブルな資本主義の確立を目指す「まる新成長戦略」を公表し、その実現に向け取り組みを加速しています。

キャリアが多様化するなか、休職や留学制度などと同様に、明日を担う若人が世界の課題解決に貢献するJICA海外協力隊の活動は貴重な経験です。経団連は、所属先に身分を置いたまま協力隊に参加できる「現職参加制度」の創設と活用を後押ししてきました。経済界からも社会の問題を自ら解決していくプレーヤーを輩出していく必要があります。企業の発展にもつながるからです。

アジアやアフリカでは若い人の起業や社会貢献活動が活発ですが、経団連は今、世界で競える日本のベンチャー企業の育成や起業家支援にも力を入れています。

昨今、「日本人は内向き志向」といわれますが、新型コロナウイルス感染拡大によって人の往来が止まり、こうした傾向に拍車がかかることを心配しています。しかし、「人財」ここにあり。協力隊の皆さんは、持ち前のバイタリティーや協調性など総合的な人間力と経験、アイデアを生かして、これから世界の社会課題の解決に貢献していただくください。



竹原玲児さん

一般社団法人 日本経済団体連合会 経団連 国際協力本部長
たけはら れいじ ● 福岡県出身。慶應義塾大学商学部卒業後、アラビヤ石油株式会社に入社。2000年、経団連事務局に入局し、国際関係の業務に従事。環境本部、広報本部、産業政策本部を経て、19年より国際協力本部。20年7月より現職。



写真左から、醸造長の丹羽智さん、東さん、飲食部長の岡部青洋さん。醸造所の隣に建設中のビアバーの前で

東濃地方の魅力を クラフトビールで伝えたい

岐阜県南東部の東濃地方にあるビール醸造所、カマドブリュワリー。代表の東恵理子さんは、放送局での勤務経験を経て青年海外協力隊に参加し、任地のバングラデシュではラジオ番組制作の支援を担当していた。バングラデシュの社会問題でもあった国民の生活習慣病の予防のため、手軽な運動習慣としてバングラデシュ版のラジオ体操を考案し、老若男女に広めた。「隊員時代には、地域独自の文化を尊重した持続可能なコンテンツ作りを実践できました」と振り返る。

帰国し、日本各地の地方創生プロデュース事業に関わりつつ、いつかは出身地である東濃地方を活性化したいという思いを募らせていた。2018年、東さんが帰郷した折にクラフトビールに詳しい岡部青洋さんと出会い、クラフトビール界のレジェンドと呼ばれる岐阜県出身の醸造家・丹羽智さんの存在を知った。「何もないと思っていた地元だけれど、協力隊時代に学んだ『ないものはつくる精神』を思い

出しました。地元の果物を副原料に使ったり、美濃焼の文化をクラフトビールに掛け合わせたりして、ここだけの唯一のビール造りで地元を盛り上げていきたい」。当時、山梨県にいた丹羽さんのもとを訪ね、クラフトビール造りの可能性や帰郷について話し合った。そして20年4月、岡部さん、丹羽さんと瑞浪市釜戸町に醸造所を立ち上げ、12月に1作目のビールを出荷した。

丹羽さんが生み出すビールは一つのジャンルにとらわれず、地元のユズを使うなどの限定醸造にも挑戦している。「ビアバーでは、窯業が盛んなこの地の器とのペアリングも提案する予定です。方言から名前をつけたり、ラベルに美濃焼の写真を使ったりしたビールで東濃地方の魅力を伝えたいですね」



＼ ちのこだわり /

OB・OG ショップ

— 国内編 —



カマドブリュワリーの定番「やっとかめエール」。やっとかめとは「久しぶり」という東濃地方の方言だ

SHOP DATA

カマドブリュワリー

経営者：東恵理子さん
バングラデシュ/コミュニティ開発/
2013年度3次隊・岐阜県出身
ウェブショップ <https://camado.stores.jp>



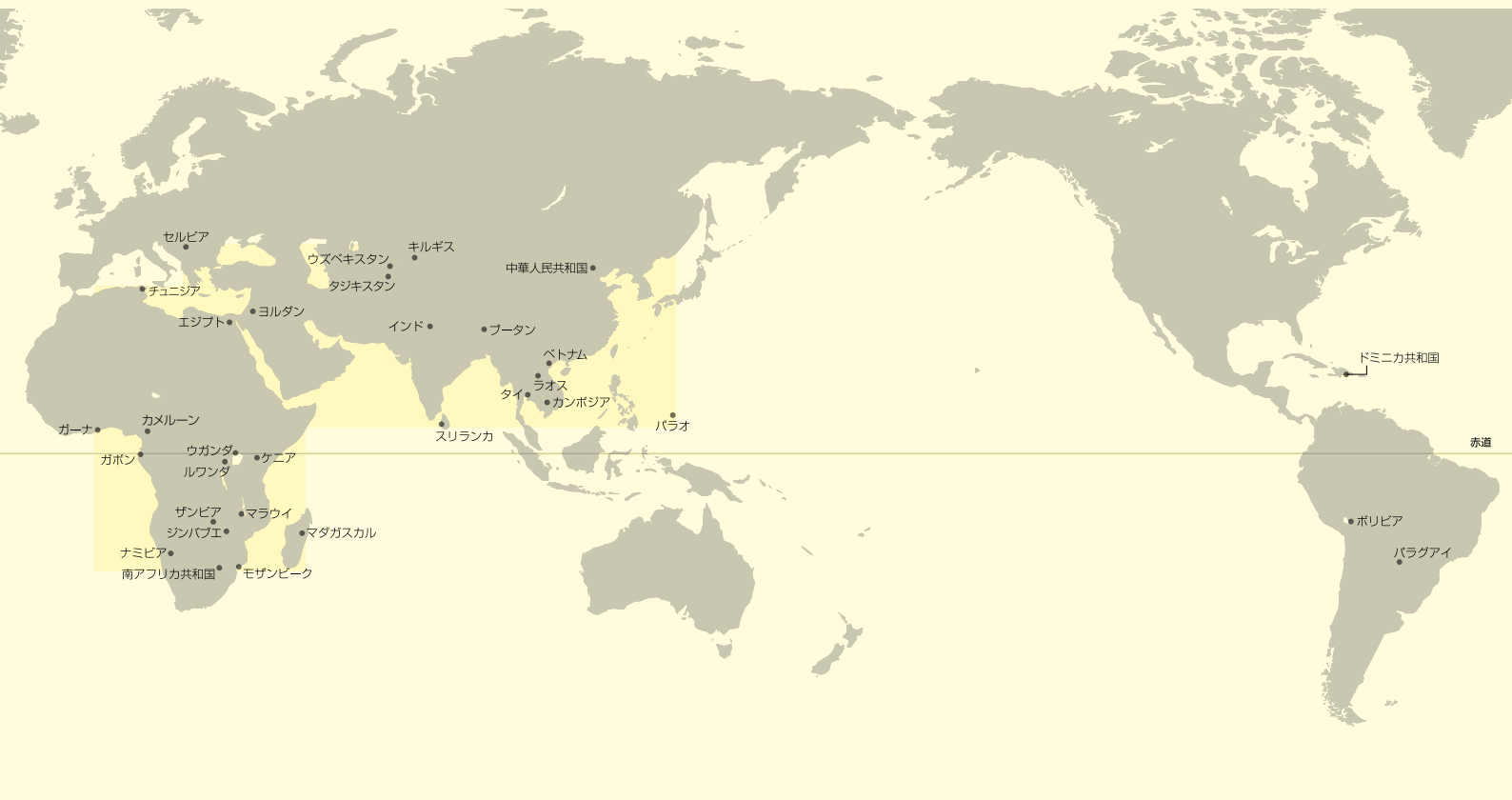
Text=村重真紀 写真提供=カマドブリュワリー

現在の派遣国数

32カ国

JICA 海外協力隊派遣現況

(2021年11月末現在)



(単位:人)

■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	18	
ガーナ	10	
ガボン	11	2
カメルーン	5	
ケニア	25	
ザンビア	2	1
ジンバブエ	10	
ナミビア	7	
マダガスカル	8	
マラウイ	14	
南アフリカ共和国	2	
モザンビーク	5	
ルワンダ	21	

■ アジア地域

国名	一般	シニア
インド	1	
ウズベキスタン	1	
カンボジア	8	
キルギス	2	
スリランカ	2	
タイ	8	1
タジキスタン		1
中華人民共和国	2	
ブータン	3	
ベトナム	11	
ラオス	21	4

■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
パラオ	3	

■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	5	1

■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	8	
チュニジア	3	
ヨルダン	4	

■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア
ドミニカ共和国	10		5	
パラグアイ	3			
ボリビア	1			

■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	234 (108/126)	10 (3/7)	5 (2/3)	0	249 (113/136)
累計 (男性/女性)	45,974 (24,392/21,582)	6,562 (5,301/1,261)	1,544 (597/947)	547 (252/295)	54,627 (30,542/24,085)

一般 = 青年海外協力隊/海外協力隊 シニア = シニア海外協力隊 日系一般 = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊 日系シニア = 日系社会シニア海外協力隊

INFORMATION

JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ

NEWS

帰国したJICA海外協力隊員の代表が 両陛下と懇談



ご懇談に先立ち、JICA本部（東京都千代田区）で北岡伸一理事長と面談した3人。前列左から近藤さん、北岡JICA理事長、富田さん、後列左から田中理事長室長、宮城さん、小林青年海外協力隊事務局長

2021年10月25日（月）に、任期を終えて帰国した3人のJICA海外協力隊員が、皇居で天皇皇后両陛下とご懇談の栄を賜りました。このご懇談は1965年に青年海外協力隊が発足した当初から今日に至るまで続いているもので、宮城勇也さん（セルビア／障害児・者支援／2018年度3次隊）、富田美佳さん（ルワンダ／コミュニティ開発／2018年度2次隊）、近藤ゆみさん（日系JV／ブラジル／日本語教育／2018年度1次隊）が2021年の代表として、両陛下へ任国での活動をご報告しました。ご懇談後、参加者からは、「和やかな雰囲気のもと両陛下が報告を熱心に聞いてくださり、多くのご質問もいただき貴重な経験をさせていただいた」、「帰国後の活動についてもご関心を寄せてくださった。励ましのお言葉もいただき、今後の大きな励みになった」といった感想を聞くことができました。



https://www.jica.go.jp/topics/2021/20211130_01.html

PROGRAM

【つくってみた】『世界の(ど)ローカルごはん』を 人気動画クリエイターが再現！

2020年11月に青年海外協力隊大阪府OB・OG会が出版した『くらしで初めて知った(ど)ローカルごはん：日本で作れる世界のレシピとお話』（紙版／電子版で販売中）は、66人の協力隊OVが任地（世界66カ国）の料理の作り方をコラムとともに紹介した一冊です。

この本のレシピを、人気動画クリエイターのはるあんさんと、ゆとりfam.さんに、11月から4カ月間にわたって再現してもらいます。すでに公開されている動画もありますので、JICA海外協力隊ウェブサイトのTOPページのバナーから、ぜひご覧ください。

2021年11月 はるあんさん × 豊川鞠子さん（ルワンダ／公衆衛生／2018年度1次隊）

2021年12月 ゆとりfam.さん × 原奈央さん（サモア／小学校教育／2018年度3次隊）

2022年 1月 はるあんさん × 深町菜摘さん（カンボジア／青少年活動／2018年度1次隊）

2022年 2月 ゆとりfam.さん × 脊尾直哉さん（ガーナ／野球／2019年度2次隊）

右のQRコードのほか、JICA海外協力隊ウェブサイトのTOPページのバナーからもご覧いただけます。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/localgohan/index.html>



AWARD

第17回JICA「理事長賞」表彰式を開催。協力隊OVも受賞

JICA「理事長賞」は、開発途上地域の経済・社会の発展や人々の福祉・教育の向上などに寄与するとともに、日本の国際協力の評価を高めるなど、他の模範となるような著しい功績を収めた団体、あるいは専門家などの個人の功績を称え、表彰しているものです。第17回の表彰式は2021年12月9日（木）に行われました。JICA海外協力隊関係者は下記の通りです。

個人

大山晃司さん（元）JICA専門家（ヨルダン／考古学／1998年度1次隊、SV／ヨルダン／考古学／2001年度0次隊）

金子正美さん 酪農学園大学教授（マレーシア／村落開発普及員／1989年度1次隊）

永代成日出さん（元）国際協力専門員（パラグアイ／農業土木／1980年度2次隊）

浅沼修一さん JICAボランティアを支援するいわての会理事／元国際協力専門員

団体

岐阜県青年海外協力隊を支援する会

クロスロード [2022年1月号]

第58巻第1号 通巻673号
発行日 2022（令和4）年1月1日

編集・発行：独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1竹橋合同ビル

制作協力：一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7昇龍館ビル2階
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン：(株)AND
印刷・製本：弘報印刷(株) 校正：佐藤智也

『クロスロード』（通常号）は、
JICA海外協力隊のウェブサイト
でも公開しています。



本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください。
アイデアも大募集中です。

今月号の『クロスロード』はいかがでしたか。ぜひご意見やご感想を編集室のメールにお寄せください。「こんな記事があれば活動先で役立つのに」「こんな記事なら読みたい」といったご要望やアイデアも随時募集しています。

『クロスロード』編集室
crossroads@sojocv.or.jp



編集後記

JICA事務局：特集から、同じ派遣国の隊員たちと取り組んだ日本祭のことを思い出しました。披露するソーラン節を同期隊員と何時間もかけて練習したのもよい思い出です。日本のことを伝えつつも現地の方々とともに楽しむことができる日本祭。皆さんもぜひ。（脇田雄気）

クロスロード編集室：いつかサモアに行ったら「ココサモア」を！と感じた、今回の「派遣国の横顔」。当初、サモアの資料を探しに書店を巡ったものの見つからず、思いついたのが太平洋諸島センター。いただいた同センター制作のガイドブックは重宝しました。（干川美奈子）

隊員めし

現地で作った日本食、
日本で作る現地めし

ジャマイカ

●レシピ

- ①レッドキドニーのあんこを作る：レッドキドニーの水煮と砂糖と少量の水（※豆の硬さが必要なら加える）を鍋に入れ、弱火で豆が軟らかくなるまで煮る。火を止め、熱いうちに豆をつぶす（つぶし加減はお好みで）。平皿に出して冷ます。あんこには乾燥防止に濡れ布巾（さらし、手ぬぐい）をかけておく（パサパサになるのを防止できる）
- ②パン生地ポウルA：ポウルに強力粉と、ドライイースト、砂糖、溶き卵を入れる。イーストめがけて、仕込み水を一気に入れて粘り気が出るまで木べらで混ぜる
- ③②にパン生地ポウルBの材料をすべて入れて、粉気が落ち着くまでゆっくり混ぜる
- ④③を清潔で平らな場所（シリコンマットや清潔なキッチン台など）の上に出して、表面が滑らかになるまで手でしっかりこねる
- ⑤1次発酵（約30分）。待っている間にあんこを6等分しておく。あんこには乾燥防止に濡れ布巾をかけておく（パサパサになるのを防止できる）
- ⑥⑤のパン生地を優しく3回パンチして、ガスを抜いたら、6等分して丸める。5～10分程度生地を休ませる
- ⑦⑥の生地を延ばしてあんこを包み、綴じ目が下になるように平たくして天板に並べる。濡れ布巾をかけて、2次発酵（約20分）。オーブンを200度にしておく
- ⑧⑥の生地の表面に卵を塗り、サイドに5～6か所キッチンバサミで2センチ程度切れ込みを入れたら、オーブンで焼く（約10～15分）

<北脇さんからのアドバイス>

- ①の1次発酵でオーブンなどの電化製品がなく発酵機能が使えない場合は、ポウルの中に戻して乾燥防止にラップをかけ、お風呂くらいの温度のお湯（イーストによって、箱の説明で温度が指定される場合もあります。38～40度くらい）を張ったポウルで湯煎する
- ⑦であんこを包むときに生地のふちが重なり分厚くなってしまふので、仕上がったときに均一の薄さになるよう、あらかじめ生地を丸く延ばす際に真ん中を少し分厚くしておきます
- ⑦の2次発酵でオーブンなどの電化製品がなく発酵機能が使えない場合は、熱めのお湯を張ったフライパンの上にそっと載せる（湯気をあてるイメージで）

●レシピ

- ①オーブンを180℃に予熱する
- ②バナナは皮をむいて潰しておく
- ③薄力粉とベーキングパウダーとシナモンを合わせてふるいにかける
- ④ポウルに卵をほぐして砂糖を加え、混ぜる
- ⑤ココナツオイル、バナナ、ラム、バニラエッセンスを順に加えて混ぜる。
- ⑥③を加えて切り混ぜる。
- ⑦オーブンで約40分～50分焼く

<北脇さんからのアドバイス>

- ②のバナナをつぶす際、私の場合はジップロックに入れて、手でもんでました。バナナはなるべく熟れたものを使うといいです。
- ⑤のココナツオイルは、ジャマイカではバターが高級品のため、安価で一般的に普及しているココナツオイルを使用しています。暑い国なので、ココナツオイルは常に液状でした。私が日本で作る際には、ココナツオイルの代わりに白ごま油を使用しています。

<編集室で再現した感想>

難易度 ★★☆☆☆
達成感 ★★★★★

混ぜて焼くだけ。ただし⑥まで作って、パウンドケーキ型がないことに気づいて大慌て。取っ手が外せるタイプのミニ鍋パンがオープン対応だったので、事なきを得ました。陶器の器でもよかったかもしれませんが、冷めてもおいしいですが、切り分けてラップでくるみ、レンジで10秒チンして、ホカホカにして食べるのもおいしかったです！

現地で作った 日本食

「あんぱん」

日本の菓子パンはジャマイカでも大人気。アンパンは豆が甘いことが珍しいようで、「面白い～」と楽しみながら食べてくれました。ジャマイカ料理では、レッドキドニーはお米、ハーブやスパイス、ココナツミルクと一緒に炊く「ライス&ピース」という炊き込みご飯がよく食べられています。

●材料（手のひらサイズ6個）

パン生地ポウルA

強力粉 ……………80g
ドライイースト ……小さじ1
砂糖 ……………大さじ1と1/2
溶き卵 ……………1/2個（残りの半分は焼くときのつや出し用）
仕込み水（イースト菌が活動しやすいように生地の温度を調整するための水）…80cc
スキムミルク ……大さじ1（※入れるとコクが出るが、こねにくくなるため、入れなくても可）

パン生地ポウルB

強力粉 ……………80g
塩 ……………小さじ1/2
バター ……………30g

レッドキドニー（赤インゲン豆）のあんこ

レッドキドニーの水煮 …300g
砂糖 ……………75g（※水煮に塩が使われている場合は好みの甘さに調整を）

<編集室で再現した感想>

難易度 ★★★★★
達成感 ★★★★★

お菓子作りは初挑戦に近く、直前になって器具がないことに気づき、粉をふる際には目の細かいざるで代用、豆をつぶすときにはポテトマッシャーを使いました。うまくいっているのか焼き上がりまで不安でしたが、オープンレンジの発酵機能を使うと簡単にできることがわかり、パン作りのハードルが下がりました。時間がかかる分、「あんぱんを家で作れた!」という達成感がありました。

日本で作る 現地めし

「バナナブレッド」

ジャマイカで私が住んでいた家の、大家のお母さんがよく作ってくれた思い出の味です。ラムやシナモンはそれぞれ小さじ1の分量にしていますが、ママは「おととつと～、入れ過ぎちゃった～」と、ドボドボと入れていました。焼きたても冷めてもおいしいので、2度、3度と楽しんでください。

●材料（6人前）

できればよく熟れたバナナ ……………2本（160-180g程度）
卵 ……………2個
砂糖 ……………50g～80g（バナナの熟れ具合によって調整）
ココナツオイル ……100g
薄力粉 ……………160g
ベーキングパウダー ……小さじ1
バニラエッセンス ……少々
ラム ……………小さじ1
シナモン ……………小さじ1

<編集室で再現した感想>

難易度 ★★☆☆☆
達成感 ★★★★★

混ぜて焼くだけ。ただし⑥まで作って、パウンドケーキ型がないことに気づいて大慌て。取っ手が外せるタイプのミニ鍋パンがオープン対応だったので、事なきを得ました。陶器の器でもよかったかもしれませんが、冷めてもおいしいですが、切り分けてラップでくるみ、レンジで10秒チンして、ホカホカにして食べるのもおいしかったです！



ラムとシナモンをたっぷり
入れるとジャマイカ風に
「バナナブレッド」

レッドキドニーの
あんこが新鮮!
「あんぱん」



調理・製菓に関わる資格の取得制度導入のための
実証実験で、生徒たちと



「いつか日本食レストランでおしゃれなデート
をしたい」と箸の持ち方を習う女子高生



ジャマイカで手作りしたおせち。
エビを捕りに潜ろうとしたものの、波が高く断念した



ケニア

染めたサイザルの糸束を手にした女性たちと岡本さん(写真中央あたり・黒い服を着用)。フェアトレードが本来は当然という思いから、フェアトレードの認証ラベルはつけていない。「商品の魅力で選んでもらえるよう、レベルを上げるために自らプレッシャーをかけているようなものです」

天然素材をカラフルに染めた手織りかご

ケニアをはじめアフリカ諸国では、身近に自生している植物のサイザルを材料に手織りのかごやバッグが作られている。この伝統工芸で、教育機会がなく仕事が得にくい現地女性の雇用創出を目指そうと、岡本ひかるさんは協力隊の仲間と共にアンバーアワーを設立した。「サイザルはアロエのような見た目ですが葉の内側の繊維は白いので、発色良く染料で染められます。ロープや住宅の床材に使われるほど耐久性が高い素材なので、かごもバッグも丁寧に使えば20年以上長持ちします」。2013年からバッグを中心に販売してきたが、野菜や鉢を入れてみたいというお客様の声を聞き、18年にかご専門ブランドの『ORIKAGO (オリカゴ)』をスタートした。

立ち上げから毎年数カ月ケニアに滞在して、7人の現地スタッフと共に農村部の作業場に通った。現在約300人の女性たちが職人として雇用されており、彼女たちへのフィードバックのため、岡本さん自身もかご

を作りながら100ページに及ぶマニュアルを完成させた。「これにより作業の手間や時間がわかり、女性たちの言い値で購入することもなく、お互い正直なやりとりができるようになりました」。

日本のお客様に喜ばれる品質を第一に、ゆがみや糸の始末、サイズにも細かく気を配っている。しかし、なかなか作り手の女性たちに伝わらないので、日本の売り場の写真を見せたり、品質の良いものを作るグループに対して、集会所の屋根を建てる援助をするなどのインセンティブをつけた。すると品質への意欲が高まっていった。

柔らかく使いやすいかごにほれ込んだリピーターが日本で増えている。「サイザルかごを広めて女性たちの雇用を継続し、ブランドの成長につなげていきたいです」。

温かみのある
手織りかご



＼ うちのこだわり /

OB・OG ショップ

— 海外編 —



サイザルの剣のような形の葉は、大きいものだと2メートルにもなる

SHOP DATA

アンバーアワー

経営者：岡本ひかるさん
ガーナ/プログラムオフィサー/
2011年度4次隊・千葉県出身
ウェブショップ <https://www.orikago.com>



Text = 村重真紀 写真提供 = アンバーアワー



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

